

MYU

CURRICULUM

GUIDE 2024

看護学群

看護学類

履修ガイド



School of Nursing

Department of Nursing

はじめに

この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での4年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見据え、納得のいく学修計画を立ててください。

「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

目次

I	宮城大学カリキュラムの全体像	06
①	宮城大学の教育目標	06
②	宮城大学の教育基本方針	06
③	学群・学類について	06
II	総論	09
①	入学から卒業までの基本的な流れ	09
②	学群とキャンパスについて	09
③	学年及び休業日・学期・時間割について	09
	（1）学年・学期及び休業日	09
	（2）時間割	09
④	学籍と在学期間について	10
	（1）学籍の異動	10
	（2）修業年限及び休学期間の限度、在学年限	10
⑤	単位について	11
	（1）単位の計算基準	11
	（2）卒業要件単位数	11
	（3）単位認定について	11
⑥	履修登録について	12
⑦	授業について	12
	（1）授業科目	12
	（2）シラバス(授業計画書)	12
	（3）授業への欠席及び遅刻	12
	（4）休講	12
	（5）補講	12
	（6）授業評価アンケートシステムについて	12
⑧	成績の評価方法について	13
	（1）試験	13
	（2）レポート・制作物等の提出方法	13
	（3）追試験	13
	（4）再試験	13
	（5）不正行為について	14
	（6）グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について	14
	（7）成績発表について	14
	（8）GPA制度	14
	（9）学修状況チェックシステム alagin(アラジン) M1について	14
⑨	進級について	15
⑩	学類の決定・履修コースの選択について	15
	（1）学類の決定	15
	（2）履修コースの選択	15
⑪	転学群・転学類及びコース変更について	15
	（1）転学群・転学類について	15
	（2）コース変更について	15
⑫	卒業認定・学位授与について	16
⑬	学修支援について	16
	（1）教員に相談したいとき	16
	（2）職員に相談したいとき	16
	（3）学生相談室、保健室について	16
	（4）合理的配慮について	16
⑭	その他	17
	（1）大学からの連絡	17
	（2）学生保険について	17
	（3）経済支援について	17

III	履修登録	18
①	履修登録とは	18
②	履修登録の手順	18
	（1）事前作業	18
	（2）履修登録	18
	（3）履修登録修正	18
	（4）時間割の保存	19
	（5）履修登録取消	19
	（6）履修登録科目の確定	19
③	履修登録上の留意点	19
	（1）履修登録可能な単位数の上限	19
	（2）単位修得済み科目の履修登録の禁止	19
	（3）集中講義科目の日程確認	19
	（4）その他	19
④	科目ナンバリング	19
	（1）科目ナンバリングとは	19
	（2）付番方法	19
IV	全学共通科目 ほか	21
①	地域連携実践教育プログラムについて	21
	（1）地域連携実践教育プログラムとは	21
	（2）単位	21
	（3）プログラムの考え方および特色	22
	（4）履修方法および履修手続等	22
②	他学群・他学類履修・他大学等履修	
	入学前既修得単位の単位認定について	24
	（1）他学群または他学類の履修について	24
	（2）単位認定に係る申請について	24
	（3）単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について	24
	（4）振替できない科目の卒業要件単位数への算入について	25
	（5）単位認定を受けた授業科目の成績表記について	25
③	学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度	26
	（1）学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは	26
	（2）単位互換制度の申請方法	26
④	学外研修・グローバルインターンシップ	27
	（1）学外研修・グローバルインターンシップとは	27
	（2）科目の履修方法	27
V	基盤教育	31
①	フレッシュマンコアとは	32
②	基盤教育における9つの科目分野	34
	（1）導入科目	34
	（2）情報統計	34
	（3）芸術・人文学	34
	（4）人間科学	34
	（5）社会科学	34
	（6）グローバルコミュニケーション	34
	（7）自然科学	34
	（8）実践基礎	34
	（9）全学共通科目	34
③	留学生対象科目	35
④	教育課程の一覧	35

VI	看護学群	37
①	看護学群看護学類について	37
	（1）看護学群での学びとキャリア	37
	（2）看護学群でのキャリア開発支援	38
	（3）看護学類の教育目標	39
	（4）看護学類のカリキュラムマップ	40
	（5）看護学類の科目関連図	41
②	看護学類の科目配当	44
	（1）看護師教育課程科目配当表	44
	（2）保健師教育課程科目配当表	46
	（3）養護教諭教育課程科目配当表	48
③	卒業に必要な単位及び卒業要件	50
④	教育課程の特色	51
	（1）看護師教育課程	51
	（2）保健師教育課程	51
	（3）養護教諭教育課程	51
	（4）災害看護プログラム	52
	（5）国際看護プログラム	52
⑤	履修での留意事項	53
⑥	履修モデル	54

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、心温まる人間関係（ホスピタリティ）に囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、このような地域社会を実現させるために「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

大学の理念

高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、強い意思を持って実践していく。

大学の目的

本学は、地域社会及び国内外の大学・研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想、食産業及びそれらの基盤となる学問に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的とする。

各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、豊かな人間性を基盤として地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	生物資源の開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学的知識と技術を持ち、豊かな人間性に基づいて食産業全体及び地域社会を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

I 宮城大学カリキュラムの全体像

1 宮城大学の教育目標

宮城大学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2 宮城大学の教育基本方針（ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー）

（1）ディプロマ・ポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマ・ポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

ディプロマ・ポリシー
大学の理念の下に、各学群の教育目標(教育研究上の目的)を定め、それを構成する要素として以下の5点を掲げる。 ① 豊かな教養と自らの専門分野を体系的に理解する知識・技術 ② 課題を発見し問題解決に至る論理的な思考・判断力 ③ 自らの考えを適切に構成し他者に伝達する表現力 ④ 自ら学び続ける意欲と高い公共性や倫理観のもとで行動する実践力 ⑤ 他者とともに共通の目標に向かい行動する協働性 宮城大学では、これらに基づき各学群で求められる専門能力を修得した学生に卒業を認め、学位を授与する。

（2）カリキュラム・ポリシーとは

「ディプロマ・ポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラム・ポリシー」といいます。

カリキュラム・ポリシー	
各学群で定める教育目標を実現するため、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの構成要素に基づき、以下の方針によりカリキュラムを体系的に編成・実施する。 ・豊かな人間性とともに基礎となる学力の形成を図る基盤教育科目と、専門的な知識と技能を修得する専門教育による体系的なカリキュラムを編成する。 ・授業は、知識を体系的に獲得する講義、その知識を実践的に修得する演習・実験・実習により実施する。また学生の主体的な学びを促進するための教育プログラムを各学群で実施する。 ・基盤教育科目は、将来にわたって明日の姿を見通すための力を身につける技法知・学問知・実践知を修得するための宮城大学共通の教育基盤として、以下の方針により編成する。また、基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のためのフレッシュマンコア科目を置く。	
1 知識・技術	幅広い知識と技術を修得するため、社会科学、自然科学、芸術・人文学、人間科学、情報統計の諸種の学問領域における広範な知識・技術を修得するための科目群を置く。
2 思考力・判断力	科学的根拠に基づく論理的な思考・判断力を養成するために能動的な学修機会を積極的に設けるとともに、フィールドワーク等を通じて実践的な課題に取り組む学修機会を設定する。
3 表現力	自己表現の技術と他者とのコミュニケーション力を育成するために、発表や議論の場を積極的に設ける。また、グローバルコミュニケーション科目を通じて国際的なコミュニケーション力の育成を図る。
4 主体性	主体的に学び続ける力を養成するために、導入科目において自らの将来を踏まえ主体的に学ぶことの意義を理解するための教育を実施する。
5 協働性	他者との協働性を養成するために、導入科目を中心として協働的な活動を取り入れた教育を展開する。

※学修成果の評価は、シラバスで設定されている各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づいて厳格に行う。

※各学群・学類のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3 学群・学類について

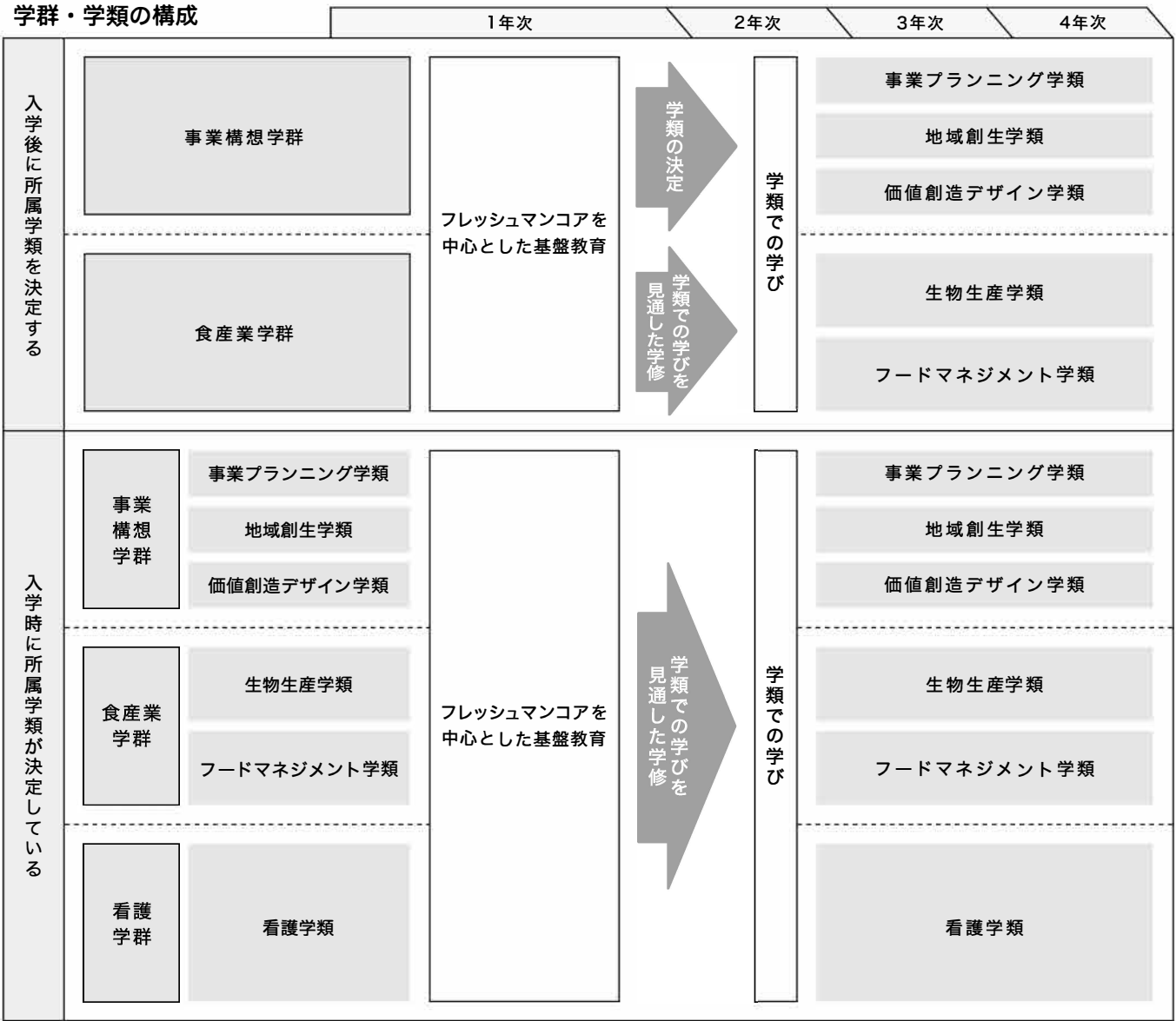
宮城大学は、学群・学類（3学群・6学類）により構成されています。

学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類
食産業学群	生物生産学類 フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2年次からの学びを見通し、1年次から学修に取り組むことができます。また、事業構想学群及び食産業学群では、2年次に所属する学類が決定されます（総合型選抜及び外国人留学生特別選抜での入学生を除く）。入学後、1年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



II．総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1 入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。



2 学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群及びそれぞれの研究科を設置しています。各学群及び研究科は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番 地 1	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2 丁目 2 番 1 号
電話	022-377-8205 (代表)	022-245-2211 (代表)

3 学年及び休業日・学期・時間割について（学則第6条、第7条、第8条）

(1) 学年・学期及び休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わります。
前期	4 月 1 日から 9 月 30 日まで
後期	10 月 1 日から 3 月 31 日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日 5 月 1 日
春季休業日	別に定めます。(春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」を確認してください。)
夏季休業日	
冬季休業日	

※後期の授業開始日は、10月1日よりも前となる場合があります。

※なお、定期試験については、原則として前期末・後期末に期間を定めて実施しますが、科目によって実施形態が異なりますので、科目を担当する教員の指示に従ってください。

(2) 時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時刻	8：50	10：30	12：50	14：30	16：10
	}	}	}	}	}
	10：20	12：00	14：20	16：00	17：40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。

①集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。

②隔週開講：1 週おきに開講するものです。

③指定日開講：特定の日時に開講するものです。

その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について（学則第18条、第19条、第21条、第23条、第24条、第25条）

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

(1) 学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、MYUpediaを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。



(2) 修業年限及び休学期間の限度、在学年限

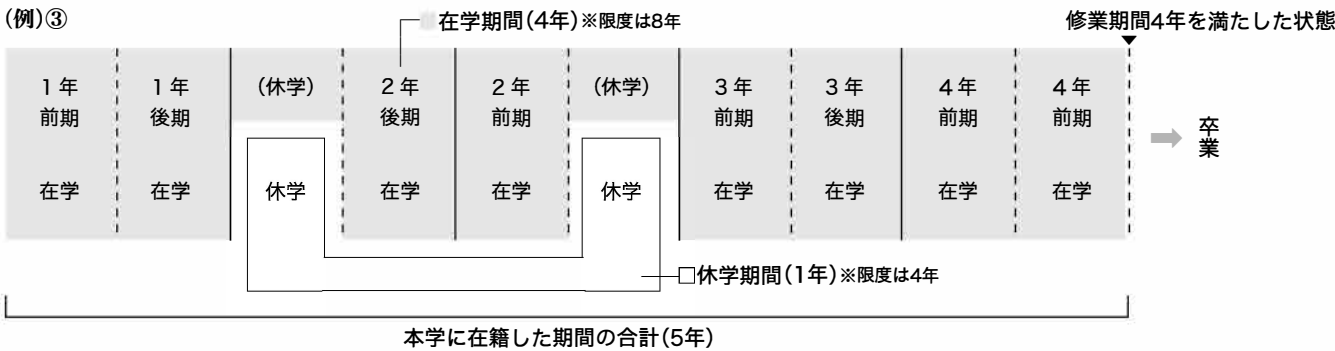
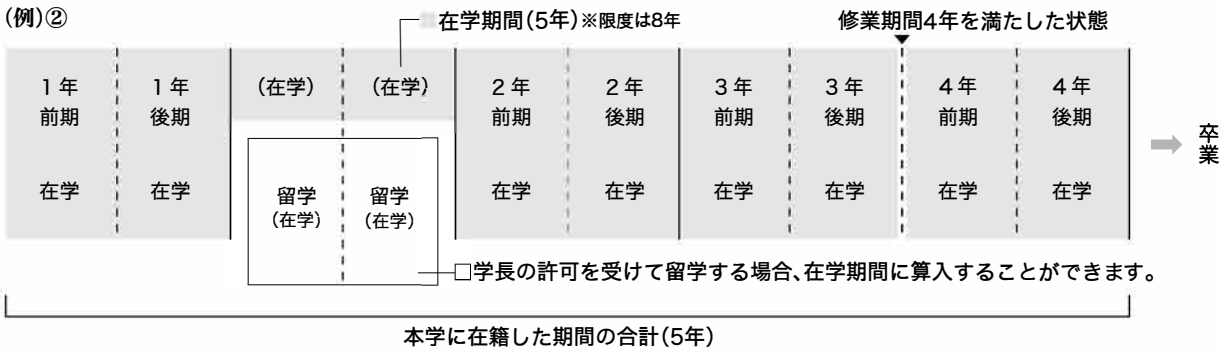
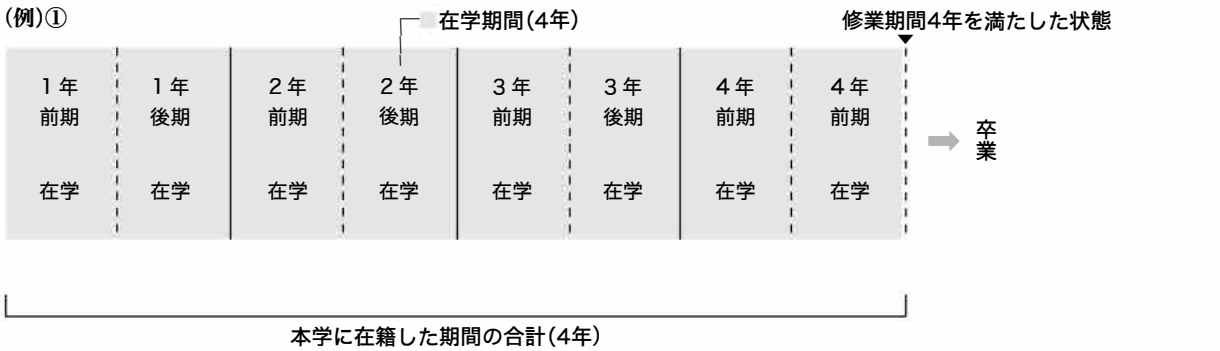
本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

- ・修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- ・修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- ・在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- ・在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- ・休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。

※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。



5 単位について（学則第34条、第35条、第36条、第37条、第38条、第39条、第40条、第41条、履修規程第15条、宮城大学他学群・他学類履修及び他大学履修に関する実施要綱）

単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

(1) 単位の計算基準

授業科目「1 単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて 45 時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 2 単位
演習	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 1 単位（2 時限構成の場合 2 単位）
実験・実習・実技	2 時限（180 分）又は 3 時限（270 分）の授業 15 回で 1 単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2 時限分の授業 15 回と事前・事後学習で 2 単位とします。

(2) 卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。また、卒業時には、所属学群のディプロマポリシー・ポリシー（学位授与方針）5 要素について、4 年間の学修成果を自己評価及び教員評価します。この評価結果は、看護学群においては卒業判定の参考資料となります。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	128 単位	127 単位	132 単位

遠隔授業により修得する単位数は、60 単位を超えない範囲で卒業要件として修得できます。

(3) 単位認定について

合格した科目の単位は、前期末・後期末に認定されます。集中講義については、開講時期に応じて、通常の科目と単位認定時期が異なる場合がありますので注意してください。なお、前期・後期の途中で退学・休学・除籍をした場合、その期に履修している科目の単位は認定されません。

また、他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60 単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位についても、申請・審査のうえ、学長が教育上有益と認められる場合、他学群・他学類の授業科目で修得した単位数と合わせて 60 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものみなすことができます。

これらの他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前単位の履修・単位認定に係る申請や、本学開講科目との振替、卒業要件単位への参入などについては、詳細を P24（IV 全学共通科目ほか）に記載しています。



6 履修登録について（履修規程第3条、第4条、第5条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。履修登録の手順の詳細はP18(III履修登録)に記載しています。

7 授業について

(1) 授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得が義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択必修科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

(2) シラバス（授業計画書）

- 授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス(syllabus)」といいます。
- シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
- 「学務管理システム」で参照することができます。
- シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。



〈シラバス検索〉

(3) 授業への欠席及び遅刻

- 単位の修得には、授業への出席が必要です。
- 欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。
- 学校感染症（新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等）と診断された、または、その疑いがあると診断されたら、出席停止となります。出席停止の扱いを受けるためには、所定の手続きが必要です。詳細についてはMYUpediaを参照してください。

(4) 休講

授業が休止になることを休講といいます。休講は、学務管理システムや学内メールで連絡します。
※休講は担当教員の都合による他、気象状況や自然災害等による場合があります。気象状況や自然災害等による休講・試験の延期については、PI7に記載されています。

(5) 補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。

(6) 授業評価アンケートについて

本学では、授業をより充実したものに改善することを目的に学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内メール等で案内されますので、履修した科目について回答してください。



8 成績の評価方法について（学則第30条、第36条、履修規程第7条、第8条、第9条、第10条、第11条）

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学修到達度によって下表のように評価され、学修到達度は、試験その他シラバス等で示された方法によって評価されます。「秀」「優」「良」及び「可」を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

(1) 試験（履修規程第7条）

期末試験は、筆記試験、口述試験、実技試験又は実験、実習、課題レポートにより行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

期末試験の日程は、試験期間前に、学務管理システムや学内メールでお知らせするとともに、MYUpediaにも掲載します。

(2) レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。

提出方法	担当教員により、提出場所や方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	[大和キャンパスレポートボックス] ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	[太白キャンパスレポートボックス] ※管理棟1階事務局入口付近に設置
	※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。	
記載事項	①所属学群・学類・コース、②学籍番号、③氏名、④授業科目名、⑤担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は、評価の対象となりませんので注意してください。	

(3) 追試験（履修規程第9条）

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願い出により追試験を行うことがあります。追試験の申請は、試験終了後1週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は、MYUpediaを参照してください。

(4) 再試験（履修規程第10条）

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は可が上限となります。

なお、必修科目について成績の評価が「不可」となり、単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修を行い、単位を修得する必要がありますので注意してください。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

また、下表の内容に該当する場合には、原則として成績評価を「不可」としますので、ご注意ください。

①	(1)試験の①又は②に該当し、試験を受験できなかった学生。
②	正当な理由なく試験を受験しなかった学生。
③	出席時間が、授業時間の5分の4に満たない学生。



(5) 不正行為について（学則第30条、履修規程第11条）

試験において不正行為をした学生に対しては、当該学期に登録しているすべての履修科目の成績が「不可」となるほか、学則による懲戒処分を行います。
※授業の出席に関し虚偽申告を行った学生に対しては、当該科目の成績評価は「不可」となるほか、その不正行為の状況によっては、学則により懲戒処分を行うことがあります。

(6) グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について

基盤教育の「グローバルコミュニケーション科目」では、学外の検定試験等において所定の条件を満たした場合、申請・審査の上、授業の出席が一部免除されることがあります。ただし、学外の検定試験等については、申請日以前の2年以内に受験したものとなるほか、出席を一部免除された場合でも、定期試験は必ず受験する必要がありますので注意してください。
詳しくは「グローバルコミュニケーション科目」の専任教員へお問合せください。

(7) 成績発表について

授業科目における成績の評価については、前期は9月末、後期は3月末に学修状況チェックシステム alaginM1で確認することができます。（詳細は「(9)学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1について」を参照）。また、評価の内容は学業成績証明書に反映されます。
※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む10日間（土日祝含まず）のみ、成績質問を受け付けます。
成績質問は、MYUpediaから所定の様式を取得し、提出してください。

(8) GPA制度

本学では、GPA制度を採用しています。GPA（グレードポイント平均値）とは、各授業科目の評点に基づきGP（グレードポイント）を付与して算出する、1単位あたりの平均値です。GPは次の式により求めた値とします。
 $GP = (\text{評点} - 55) / 10$ ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする。

・学修状況および成果を示す指標として「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の3種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第3位以下を切り捨てて表記しています。

①学期GPAの計算式

学期GPA =
$$\frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

②年度GPAの計算式

年度GPA =
$$\frac{(\text{その年度に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

③通算GPAの計算式

通算GPA =
$$\frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

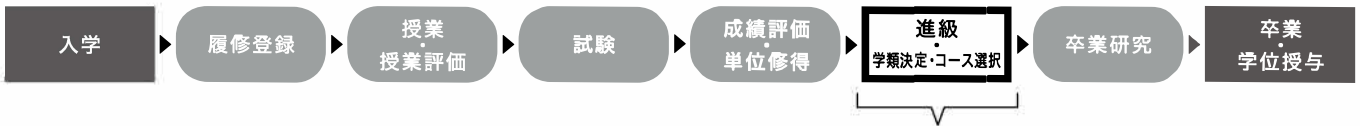
- ・GPAは、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。
 - ア) 編入学または転入学した際の単位認定科目
 - イ) 本学入学前に修得した単位認定科目
 - ウ) 他大学等との単位互換等で修得した科目
- ・履修登録した科目を放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算GPAに算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修登録取消期間中に所定の手続きを行って下さい。

(9)学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1について

alaginM1（Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system）は、成績GPA、履修単位数などの学修状況をいつでも確認できるチェックシステムです。
アクセスする際は、ログインページのURL（<https://allam1.jp/alag>）に直接アクセスしてください。
詳しくは、MYUpediaにあるalagin/nigala M1利用マニュアルを参照してください。なお、毎学期末に行われる授業評価アンケート実施期間中はそのアンケートに回答した後にalaginM1にアクセスできるようになっています。



〈alaginM1〉



9 進級について（履修規程第12条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年度共通	配当年次において未修得の必修単位が通算（※）6単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次） （※）通算とは、入学時からの累積	
2年度進級要件	卒業要件単位数のうち30単位以上を修得していること。	
3年度進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1・2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4年度進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 3年次に開講されている実習（母性、小児、成人、老年、精神、地域、在宅、看護マネジメントの8つの領域）の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10 学類の決定・履修コースの選択について（学則第21条、履修規程第13条、第14条）

(1) 学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、1年度末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類に所属できるとは限りません。学類の決定方法等については、ガイダンス等で案内されます。

(2) 履修コースの選択

事業構想学群価値創造デザイン学類では、専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
事業構想学群	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	2年度前期（4月）の所定の期日まで

11 転学群・転学類及びコース変更について

(1) 転学群・転学類について（学則第22条、転学群及び転学類に関する規程）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、MYUpediaにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

(2) コース変更について（履修規程第14条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。



12 卒業認定・学位授与について（学則第41条）

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	生物生産学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、以下にご相談ください。
なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

（1）教員に相談したいとき

スタートアップセミナーⅠ、Ⅱの担当教員が窓口となって相談を受け付けます。担当教員以外の教員も受け付けていますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談してください。

（2）職員に相談したいとき

事務局の窓口が利用できる時間帯は、平日8：30～17：50です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務局窓口が利用できる時間帯で行ってください。

（3）学生相談室、保健室について

- ・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
- ・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
- ・利用時間はMYUpediaで確認してください。



〈MYUpedia〉

（4）合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいや持病を有する学生に、大学での学修を進める上で必要な配慮を行い、障壁（バリア）となるものを除去することを意味します。障がいや持病の有無にかかわらず、すべての学生が、公平で平等に学修を進めることができるようにするためです。合理的配慮を希望する場合は、チューデントサービスセンター（事務局 大和：学生支援グループ、太白：教務・学生支援グループ）に相談してください。

14 その他

（1）大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。
また、学内メールの他、学務管理システム(<https://gakumu.myu.ac.jp>からログイン)やMYUpediaを通じて連絡を行うことがあります。



〈MYUpedia〉 〈学務管理システム〉

【1】自然災害等による遠隔授業・休講への切り替えの基準

下記の気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため遠隔授業への切り替え又は休講措置を行います。

- ① 以下の時点において、仙台市又は大和町に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「警報」が発令され、チューデントサービスセンター長（以下SSC長）及び副センター長が遠隔授業への切り替え又は休講が必要と判断した場合（JR在来線（東北本線・常磐線・仙山線・仙石線）の仙台駅を含む区間の運休又は運転見合わせや仙台市立小中学校の休校を目安として判断します。）

原則、前日16時又は17時の時点：翌日授業を『遠隔授業』又は『休講』とする

（気象庁の発表に合わせて時間は前後する場合がある）

※実験・実習、インターンシップ等遠隔授業への切替が困難な科目の実施有無については、当該基準に準じ、各担当教員（看護学実習の場合は学群長又は実習ワーキンググループ長）の判断によります。各学群より学生への周知を行ってください。

- ② 上記のほか、学長及びSSC長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合

なお、前日時点で「対面授業」と判断した場合も、天候の急変等により、遠隔授業又は休講へ切り替える場合があります。

【2】休講の基準

予め予想できない自然災害等が発生した場合や、遠隔授業による授業実施も困難な状況の場合は、休講について判断するものとします。

午前7時の時点：当日、午前の授業（1・2限）『休講』
午前10時の時点：当日、午後の授業（3～5限）『休講』

上記のほか、学長及びSSC長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合には、学外ウェブサイト、学内メールなどによって周知されます。

（2）学生保険について

学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故（自分自身のケガ）・賠償事故（他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償）に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、MYUpediaの「生活支援」に記載していますので、参照してください。

（3）経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、MYUpediaに記載していますので参照してください。

III. 履修登録

ここでは、履修登録に係る手続きについて説明します。これらの内容の詳細は履修規程で定められています。

1 履修登録とは（履修規程第3条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、定められた期間内に履修登録を行う必要があります。計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。履修登録に関する情報は、MYUpediaに掲載します。

本学では、履修登録に学務管理システムを利用します。



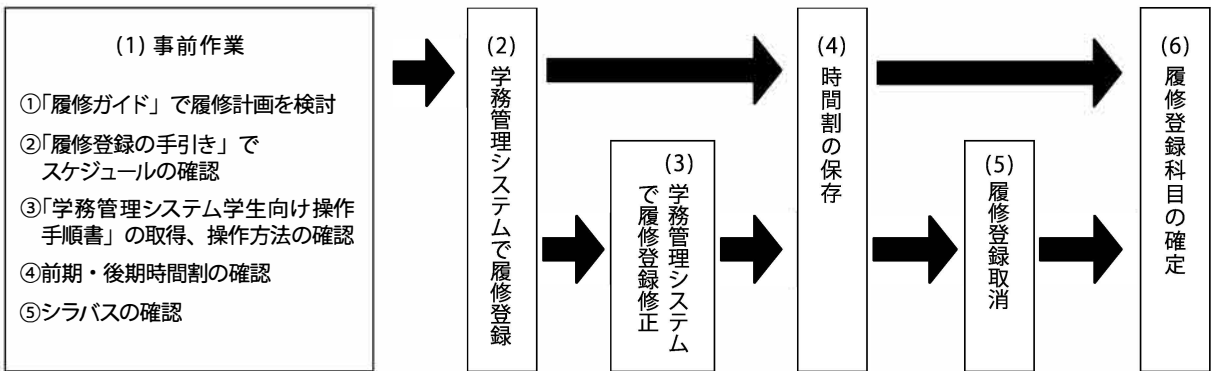
（MYUpedia）



（学務管理システム）

2 履修登録の手順

履修登録の手順は、下図のとおりです。



(1) 事前作業

①「履修ガイド」で履修計画を検討

「履修ガイド」には、各学群のカリキュラムの他、年次科目の詳細が記載されています。自分の希望する進路に合わせて、履修計画を検討してください。

②「履修登録の手引き」でスケジュールの確認

「履修登録の手引き」には、履修登録に係る詳細のスケジュールなど、重要な情報が記載されていますので必ず確認してください。

③「学務管理システム学生向け操作手順書」の取得・確認

MYUpedia に「学務管理システムポータルサイト使い方（学生）」が掲載されます。基本的な操作手順が記載されていますので、確認してください。

④時間割の確認

MYUpedia に、当該年度の前期・後期の時間割が掲載されます。同日・同じ時限に開講されている科目は同時に履修できませんので、注意してください。

⑤シラバスの確認

学務管理システムから授業科目のシラバスを確認することができます。シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法、ナンバリング（詳細は P19 「4 科目ナンバリング」を参照）などが簡潔に説明されていますので参考としてください。

(2) 履修登録

定められた期間内に学務管理システムで履修登録の操作をしてください。選択された内容は、学務管理システムの「時間割」で確認することができます。また、後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録を行う必要がありますので注意してください。

(3) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合、定められた期間内であれば、学務管理システムから登録内容を修正することができます。後期科目については、後期授業開始後に同様の修正期間を設けます。

(4) 時間割の保存

履修登録が行われたことを確認するため、最終的な登録結果として、時間割を保存してください。

(5) 履修登録取消

定められた期間内であれば、履修登録を取り消すことができます。履修登録を行った科目は自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPAに反映されます。履修の意思がない場合は、定められた期間内に履修登録の取り消しを行ってください。

(6) 履修登録科目の確定

履修登録に係る所定の手順を終えると、最終的な登録内容が学務管理システムの時間割で確認できます。登録内容が(4)で保存した時間割と異なっている場合は、事務局に連絡してください。

3 履修登録上の留意点（履修規程第4条、第5条）

(1) 履修登録可能な単位数の上限

本学では、履修登録できる単位数の上限を定めています。

履修登録単位数の上限	
1～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで
※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。 ・各学群の卒業要件に含まない科目 ・春季休業日、夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目 ・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合	

(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

(3) 集中講義科目の日程確認

集中講義科目を2科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

(4) その他

履修登録期間中には、履修登録に係る連絡事項が伝えられますので、学務管理システム、MYUpedia、学内メールを確認してください。

4 科目ナンバリング

(1) 科目ナンバリングとは

学びの分野や順序等を表す番号を科目に付け、教育課程の体系性をわかりやすく明示する仕組みです。授業の性格、位置づけ等を明示していますので、科目履修の際の参考としてください。

(2) 付番方法

原則として学類ごとに、科目に固定して付番しています。同一科目でも、所属学類が異なると番号が異なります。なお、授業科目の見直し等により再付番する可能性があります。本学における科目ナンバリングは次の構成とします。

AB - CDEF 1 01
① ② ③ ④ ①学群・学類コード ②学問分野コード ③配当年次 ④順序番号

※コード表は、MYUpediaで参照できます。

例) 科目名「スタートアップセミナーⅠ」のナンバリングFA-INTR101は以下の内容を表します。

学群・学類コード: 基盤教育群(FA) 学問分野コード: 導入科目[Introductory Subjects](INTR) 配当年次: 1年次(1)

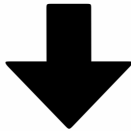
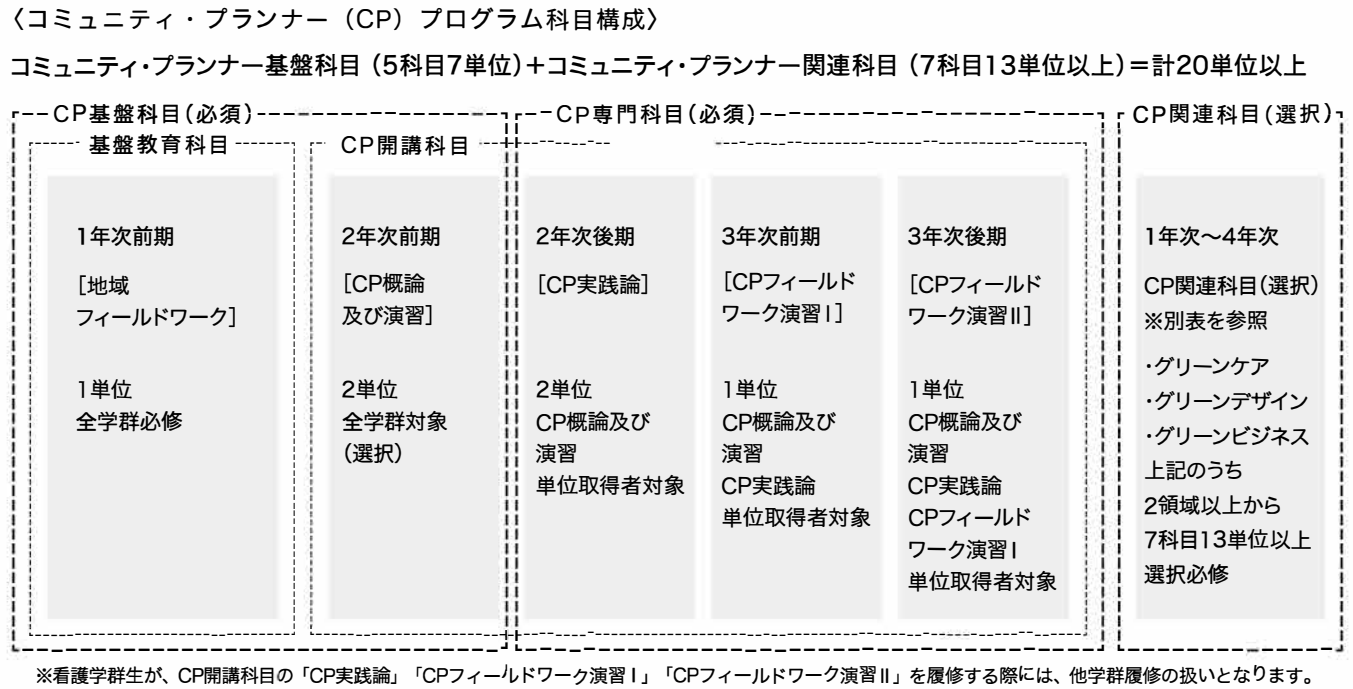
順序番号: ①～③の付番が同じ組合せとなるグループの中で1番目に位置づけ(01)

IV. 全学共通科目ほか

1 地域連携実践教育プログラムについて

(1) 地域連携実践教育プログラムとは
地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見・聞いて・体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位
必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目1単位、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー概論及び演習」「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」の4科目6単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「コミュニティ・プランナー関連科目」のうち2領域以上から7科目13単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで宮城大学・兵庫県立大学「コミュニティ・プランナー育成プログラム」の運営に関する覚書に基づき、卒業時に『コミュニティ・プランナーアソシエイト』の称号及び証書が授与されます。



『コミュニティ・プランナー アソシエイト』称号及び証書 授与		
＜CP概論及び演習＞ 地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。	＜CP実践論＞ 実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じた事例分析により、CPとしての知識・理解を深めます。	＜CPフィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ＞ コミュニティ再生の実践的経験を通して、CPとしての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

(3) プログラムの考え方及び特色

①GREENの視点

持続可能(サステナブル)な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命(いのち)がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命(いのち)のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命(いのち)の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義＋フィールドワーク(実践)」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

(4) 履修方法及び履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への算入

履修登録単位数には上限があります。P19「3(1)履修登録可能な単位数の上限」を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

全学群(看護学群、事業構想学群、食産業学群)において、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「コミュニティ・プランナー概論及び演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」は卒業要件単位には入りません(地域創生学類を除く)。

③看護学群生による履修

看護学群生が、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。P24「2(1)他学群又は他学類の履修について・(2)単位認定に係る申請について」を確認してください。

④コミュニティ・プランナー関連科目

コミュニティ・プランナー関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群・他学類にて開講している科目を履修する場合には、学群・学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」を確認してください。

※コミュニティ・プランナー関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表 コミュニティ・プランナー(CP)関連科目(2領域以上、7科目13単位以上を修得)

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	地域資源論	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	人間関係論	1後	2	看護	地域社会学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	臨床心理学	1後	2	看護	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	災害活動論	1後	2	看護	地域医療福祉政策論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	ライフステージ看護学概論Ⅰ (全学群の学生履修可)	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	ライフステージ看護学概論Ⅱ (全学群の学生履修可)	2前	2	看護	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	地域看護学概論	2前	2	看護	食農素材化学	2前	2	生物生産
	地域学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品衛生学	3前 2前	2	生物生産 フードマネジメント
	行政学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	動物生殖学	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	生理学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	栄養科学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	公共経営	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
計28科目								
グリーンデザイン	地域学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	交通計画	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	行政学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	災害の科学(水)	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地域環境政策	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	災害の科学(土)	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地理情報分析	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	防災計画	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	風土・伝統デザイン	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	都市と文化	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ビジネスプロセス論	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	情報と環境	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	農業農村振興論	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	身体と認識	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	景観工学	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	公共経営	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地区・街区計画	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	サステナブルデザイン	4前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	地域分析学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地域食産業論	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	都市計画	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	アグロテクノロジー	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域プロジェクトマネジメント	2集中	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	環境科学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域資源論	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食産業政策論	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域社会学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
グリーンビジネス	ユーザビリティ	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	CSR・CSV	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食文化論	4前	2	フードマネジメント
	グローカル共生論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	計39科目			
	公衆衛生学	1後	2	看護	食品マーケティング基礎	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域活性化とビジネス	1後	1	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地域食産業論	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	施設園芸学	2後	2	生物生産
	行政学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	アグリビジネス論	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食材生産経営学	2後	2	生物生産
	地域企業論	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	畜産食品学	2後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	水産食品学	3後 2後	2	生物生産 フードマネジメント
	公共経営	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食料・農業・農村政策	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	露地園芸学	3前	2	生物生産
	地域分析学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域資源論	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食産業政策論	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域社会学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	付加価値食材生産法	3後	2	生物生産
	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	暮らしと作物	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域産業政策	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	動物生産管理学	3後	2	生物生産
	地理情報分析	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	現代食農ビジネス論	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	社会起業論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
計34科目								

2 他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前既修得単位の単位認定について（学則第37条、第38条、第40条）

(1) 他学群または他学類の履修について

他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他学群・他学類として学生が申請できる授業科目は下表のとおりです。

学群	他学群・他学類の学生が申請できる授業科目の範囲
看護学群	授業形態が「講義」区分の科目
事業構想学群	科目区分「卒業研究」を除く全ての科目
食産業学群	全ての科目（ただし、科目区分「卒業研究」については、食産業学群の学生が、所属していない他学類の科目を申請できる）

(2) 単位認定に係る申請について

他学群又は他学類の授業科目の履修、他の大学又は短期大学における授業科目の履修等、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位の認定に係る申請は下表のとおりです。これらの申請が必要な場合は、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

	学群	要件	履修に係る申請	単位認定に係る申請	
①	本学の他学群・他学類の授業科目を履修したいとき (他学群・他学類履修)	あらかじめ当該授業科目担当教員の確認を得ること	前期又は後期の授業科目履修登録期限前までに、承認申請を行うこと	当該単位を修得した年の翌年の前期授業科目の履修登録期限日までに、 <u>在学中修得単位の認定申請</u> を行うこと ※1	あわせて60単位を超えないもの
②	在学中に、他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む）、高等専門学校の専攻科等における授業科目を履修したいとき（他大学等履修）	他大学等との協議又は単位互換協定等に基づくもの	事前申請を行うこと		
③	入学する前に、大学又は短期大学において修得した単位を認定したいとき（入学前既修得単位）				
※1 ②、③の認定申請は、所定の申請書に加えて、以下の書類を添える必要があります。 ・成績証明書（単位を修得した大学等の発行するもの） ・申請する授業科目について、単位を修得した大学等が作成した授業科目の内容、単位制度等、単位の換算認定に必要な資料					

※なお、学都仙台単位互換ネットワークに関する協定に基づく授業科目に関する履修については、P26に記載しています。

(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について

②他大学等履修、③入学前既修得単位として単位認定された科目については、本学開講科目において単位を修得したものととして、申請・審査の上、振り替えることができます。

本学開講科目への振替の可否は、学群教授会において、所属学群及び学類開講科目と、単位認定された科目の授業内容等を相互に比較し、その類似性により決定します。

ただし、看護学群において振替により卒業要件単位に算入することのできる授業科目は基盤教育科目6単位及び専門基礎科目25単位とし、その上限を31単位とします。

(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について

単位認定された科目のうち、振替できない科目の卒業要件単位数への算入は下表のとおりです。なお、これらの科目について、卒業要件単位算入の認定を希望する学生は、別途申請を行う必要がありますので、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

		区分（略称）	看護学群	事業構想学群	食産業学群	
外国人留学生を除く学生	①	他学群・他学類履修	基盤教育科目に区分し6単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し3単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し3単位、他学類科目は専門関連科目に区分し8単位、総計8単位まで算入可能	総計8単位まで算入可能
	②	他大学等履修			基盤教育科目に区分し、3単位まで算入可能	
	③	入学前既修得単位				
外国人留学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	算入不可	他学類科目は専門関連科目に区分し、総計8単位まで算入可能	総計8単位まで算入可能
	②	他大学等履修				
	③	入学前既修得単位				

(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について

単位認定された科目について、成績表記は下表のとおりです。なお、①については、本学の開講科目のため、成績及び科目担当教員名が明記されますが、②③については、単位が認定されたことのみ記載されます。

	区分		科目分類	科目区分	科目名称	単位数	成績評価の表記	科目担当教員名
①	他学群・他学類履修		他学群・他学類	履修した科目の区分	履修した科目の名称	履修した科目の単位数	秀・優良・可	記載
② ③	他大学等履修・入学前既修得単位	うち振替可能授業科目	他大学等	振替した科目の区分	振替した科目の名称	振替した科目の単位数	認	空欄
		うち振替できない授業科目		—	履修した他大学等の授業科目名称	原則として、履修した他大学等の配当単位数		

3 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として、授業料はかかりません(放送大学の授業料を除く。実習費用等が別途かかる場合があります)。履修できる授業科目(シラバス)や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイトを確認してください。



〈学都仙台コンソーシアム〉

(2) 単位互換制度の申請方法

①受講手続きの流れ

	募集要項・出願期間の確認		履修申請(出願)		履修許可・受講開始		成績連絡		卒業要件単位参入
前期	前年度3月		3月～4月		4月		10月		翌年度4月
後期	前年度3月		8月(大学により4月)		10月		3月		翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目・募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始	→	ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務局あてに提出	→	宮城大学事務局から履修の案内を受け取り次第、授業の受講開始	→	宮城大学事務局より成績連絡	→	既修得単位認定の申請を宮城大学事務局に提出

②出願資格

宮城大学に在籍する学生(大学院生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生を除く。)で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「〇年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。

なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③出願期間

出願期間は、相手先の大学によって違います。希望する大学の出願締切の1週間前までに、宮城大学事務局へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生(特別聴講学生)願書」(共通様式または各校指定様式)に必要な事項を記入して、宮城大学事務局へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受入校からの「受入決定通知書」をもって履修決定となりますが、それ以前でも講義を聴講することは可能です。受講が決定したら宮城大学事務局よりお知らせします。

⑥成績連絡

履修した科目の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、学内メール又は学務管理システムでお知らせしますので、宮城大学事務局窓口で受け取ってください。

⑦単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、MYUpediaで確認してください。



〈MYUpedia〉

4 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会に必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。

(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター、基盤教育群等から案内される募集手続きに従って応募・履修登録します。詳細は各担当部局で配布する募集要項等を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

×毛欄：

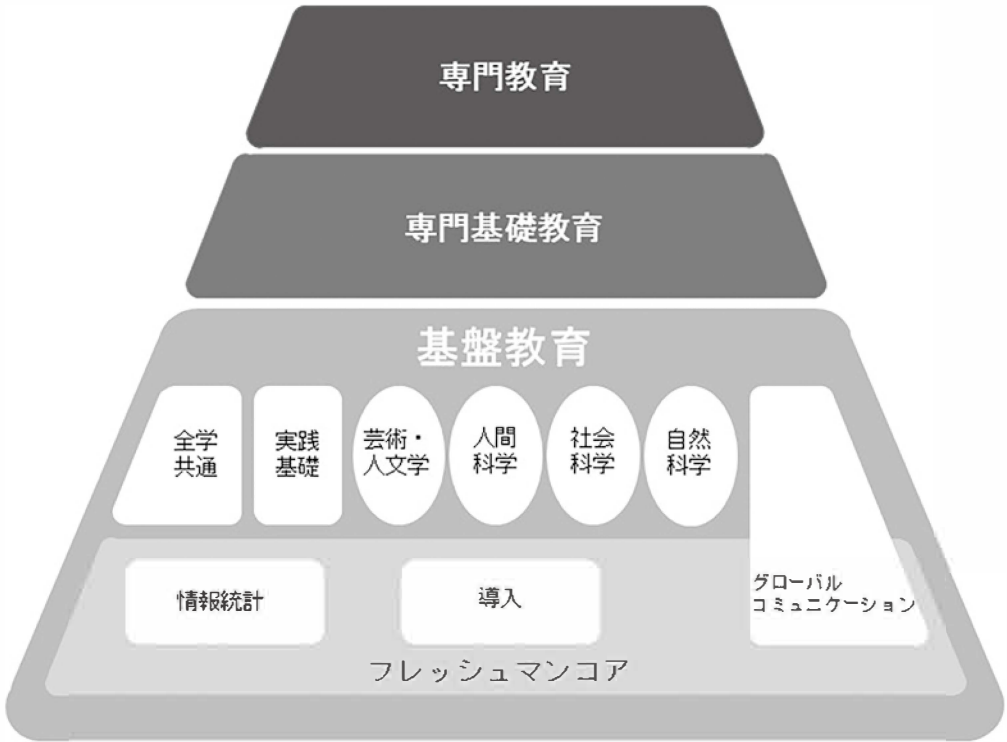
[illegible][illegible]

メモ欄：

V. 基盤教育

皆さんは大学での学びをどのようにお考えでしょうか。これまでの皆さんの学びの方法は、文法であれ、法則であれ、情報活用のスキルであれ、あるいは歴史・文化・社会についての知識であれ、教えられたことを覚える、といったものではなかったでしょうか。しかし、大学での学びは、教えられたことを覚えるだけでは十分とはいえません。大学での学びの中心は、教えられたことを踏まえながらも、自ら考え、課題を見出し、その解決策を探究していくことにあります。そのためには、自ら調べ、考えを深めることのみならず、他者と意見を交わし、自らとは異なる見解や文化のなかに問題解決の可能性を探ることも必要となります。学問に触れ、地域とかかわり、他者と交わるなかで、身近な地域に、多様な社会に、そして広い世界のなかに自らを位置づけることによって、将来の展望を持つことができるようになります。宮城大学は、このような考えのもと、大学での学びが生涯の学びの糧となることを願っています。

その意味では、皆さんの大学での学びが充実したものであることが肝要です。そして、そのための最初の働きかけが宮城大学の基盤教育です。基盤教育では、3つの力(知)を養います。1つ目は、基礎的な言語・数量・情報を使いこなす力(技法知)。2つ目は、学知を理解し、検討し、新たな視点を見出す力(学問知)。そして3つ目は、自己と他者への理解を深め、他者と協働しながら目標を達成する力(実践知)。これら3つの力(知)の修得を通じて、人間力の向上、生涯にわたって学び続ける力の涵養、そして明日の姿を見通す力の育成を目指します。



上の図に示すように、基盤教育は「導入科目」「情報統計」「芸術・人文学」「人間科学」「社会科学」「グローバルコミュニケーション」「自然科学」「実践基礎」「全学共通科目」の9つの科目分野から構成されています。各分野の概要については、ページをあらためて、ご紹介します。

I
フレッシュマンコアとは

基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のための全学必修科目群をフレッシュマンコアと呼びます。

フレッシュマンコアは、技法知、学問知、実践知の修得に向けた基礎トレーニングの場です。ここではまず専門科目を主体的に学ぶための礎を築きます。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学びながら、多様な意見から集団で適切な仮説や答えを導き出す能力を養っていきます。さらに、地域や社会の一員として自らの果たすべき役割についても考えを深めていきます。これら一連の営みを通じて、一人ひとりの生涯の学びの基盤を確かなものにしていきます。

〈フレッシュマンコア〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



基礎力としての言語スキル、
数量スキル、情報スキルを
身につけます。



思考力の基本的な
トレーニングを
行います。



実践力の基礎となる
「自己理解」「他者理解」を
学びます。

人間力＋学び続ける力



明日の姿を見通す力

フレッシュマンコアとして全学必修科目に指定されている科目は、以下の通りです。

①スタートアップセミナーⅠ …… ▶宮城大学での学びの基礎を確立するための科目です。前半は、大学での学びに必要な知見やスキルを講義形式で学びます。後半は、課題解決に向けた主体性・協働性の涵養にも配慮し、少人数でのグループワークが中心となります。

②スタートアップセミナーⅡ …… ▶前半は、在学中に必要とされるだけでなく、卒業後にも利用可能な、汎用性の高い知見・態度の涵養とスキルの修得を目指します。後半は、キャリア・デザインの授業を通じて、自分自身の現在・過去・未来を考えていきます。

③地域フィールドワーク …… ▶地域を歩き、自らのミッションを問う。地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考えていきます。

④コンピューターリテラシー …… ▶リテラシーとは元々は読み書きの能力を指します。この科目では、コンピューターとネットワークをまさしく文房具として活用するための技法を習得します。道具を上手に使えることは生産性に直結します。

⑤情報化社会と技術 …… ▶学問としての計算機科学への導入科目です。すなわち、情報の理論、コンピューターの仕組み、プログラムと通信の原理を学びます。現代社会を支える情報システムの根幹を成す理論の枠組みを知ることは、それらをうまく利用するためにも極めて重要です。

⑥基礎統計学Ⅰ …… ▶AIやビッグデータ時代といわれる現代社会において、統計学に裏打ちされた数量科学的検証の重要性が高まっています。その応用は、あらゆる分野と幅広く、様々な性質のデータに対して統計解析を適切に実行し、妥当な解釈を得るには、正しい知識と解析技術が不可欠です。本講義では、グラフや表による標本データの整理・表現法を身につけ、記述統計を基礎とした理論や解析技術を学びます。

⑦必修英語科目（以下の6つの英語科目も全学必修です）
English GatewayⅠ、English Self-ExpressionⅠ
English GatewayⅡ、English Self-ExpressionⅡ
English for Academic Purposes、English Expedition
…… ▶世界中の社会や技術発展について書かれたテキストやオンライン教材を使用し、読解の能力を強化させる一方、スピーキングやライティングを通し、異なる表現方法を学びます。また、英語の教材を通して、様々な視点や異文化理解を身につけることを目指します。

2 基盤教育における9つの科目分野

基盤教育では、以下の9つの科目分野に、63科目を配しています。そのなかでも「＊」の付いている科目は全学必修科目となります。この他にも、学群ごとの必修科目が存在します。

(1) 導入科目：宮城大学の基盤教育を特徴づける科目分野

スタートアップセミナーⅠ＊	スタートアップセミナーⅡ＊	地域フィールドワーク＊
---------------	---------------	-------------

(2) 情報統計：AⅠ時代・情報化社会の基本スキルを修得するための科目分野

コンピューターリテラシー＊	情報化社会と技術＊	基礎統計学Ⅰ＊
基礎統計学Ⅱ ^(a)		

(a)「基礎統計学Ⅱ」は、事業構想学群および食産業学群の必修科目です。

(3) 芸術・人文学：豊かな精神性の涵養に資する科目分野

現代メディアカルチャー論	美術	音楽
美術演習	音楽演習	文学
世界の歴史と文化	日本の歴史と文化	東北の歴史と文化
人と宗教		

(4) 人間科学：心身の健康と健やかな生活環境の構築に資する科目分野

心理学	健康科学	スポーツ実技
体を動かす楽しみ	スポーツ科学	福祉入門
食と社会 ^(b)		

(b)「食と社会」は、食産業学群の必修科目です。

(5) 社会科学：社会の理解に資する科目分野

憲法	政治学概論	国際関係論
社会と経済	現代東北社会論	社会の諸相
社会と哲学	人口学概論	文化人類学概論

(6) グローバルコミュニケーション：国際感覚の育成に資する科目分野

English GatewayⅠ＊	English Self-ExpressionⅠ＊	English GatewayⅡ＊
English Self-ExpressionⅡ＊	English for Academic Purposes＊	English Expedition＊
University English	Academic Writing	Academic Reading
中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	韓国語Ⅰ
韓国語Ⅱ	スペイン語Ⅰ／SpanishⅠ	スペイン語Ⅱ／SpanishⅡ
国際日本学／Japanology	グローバル・ビジネス／Global Business	

(7) 自然科学：自然の理解に資する科目分野

数学概論	数理科学	物理概論
化学概論 ^(c)	生物概論 ^(d)	生命科学
環境学概論	地球と宇宙	

(c)「化学概論」は、食産業学群の必修科目です。

(d)「生物概論」は、看護学群および食産業学群の必修科目です。

(8) 実践基礎：実践的な専門教育に向けての導きの糸となる科目分野

全学自由ゼミ ^(e)	コミュニティ・プランナー概論及び演習	アントレプレナー基礎
-----------------------	--------------------	------------

(e)「全学自由ゼミ」は、看護学群では開講しません。当該科目の履修を希望する看護学群の学生は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

(9) 全学共通科目：国内外の大学や企業と連携した研修など、全学に共通する学びを提供する科目分野

学外研修	グローバルインターンシップ	
------	---------------	--

3 留学生対象科目

外国人留学生の皆さんは、下表の基盤教育科目が必修となります。
また、記載されている英語科目(*)の中から4年間で2単位(2科目)以上を履修し修得する必要があります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
スタートアップセミナーⅠ	○	○	○
スタートアップセミナーⅡ	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
コンピューターリテラシー	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
基礎統計学Ⅰ	○	○	○
基礎統計学Ⅱ	選択	○	○
* English GatewayⅠ	6科目から 2単位(2科目) 以上選択	6科目から 2単位(2科目) 以上選択	6科目から 2単位(2科目) 以上選択
* English Self-ExpressionⅠ			
* English GatewayⅡ			
* English Self-ExpressionⅡ			
* English for Academic Purposes			
* English Expedition			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	○	選択	○
食と社会	選択	選択	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

4 教育課程の一覧

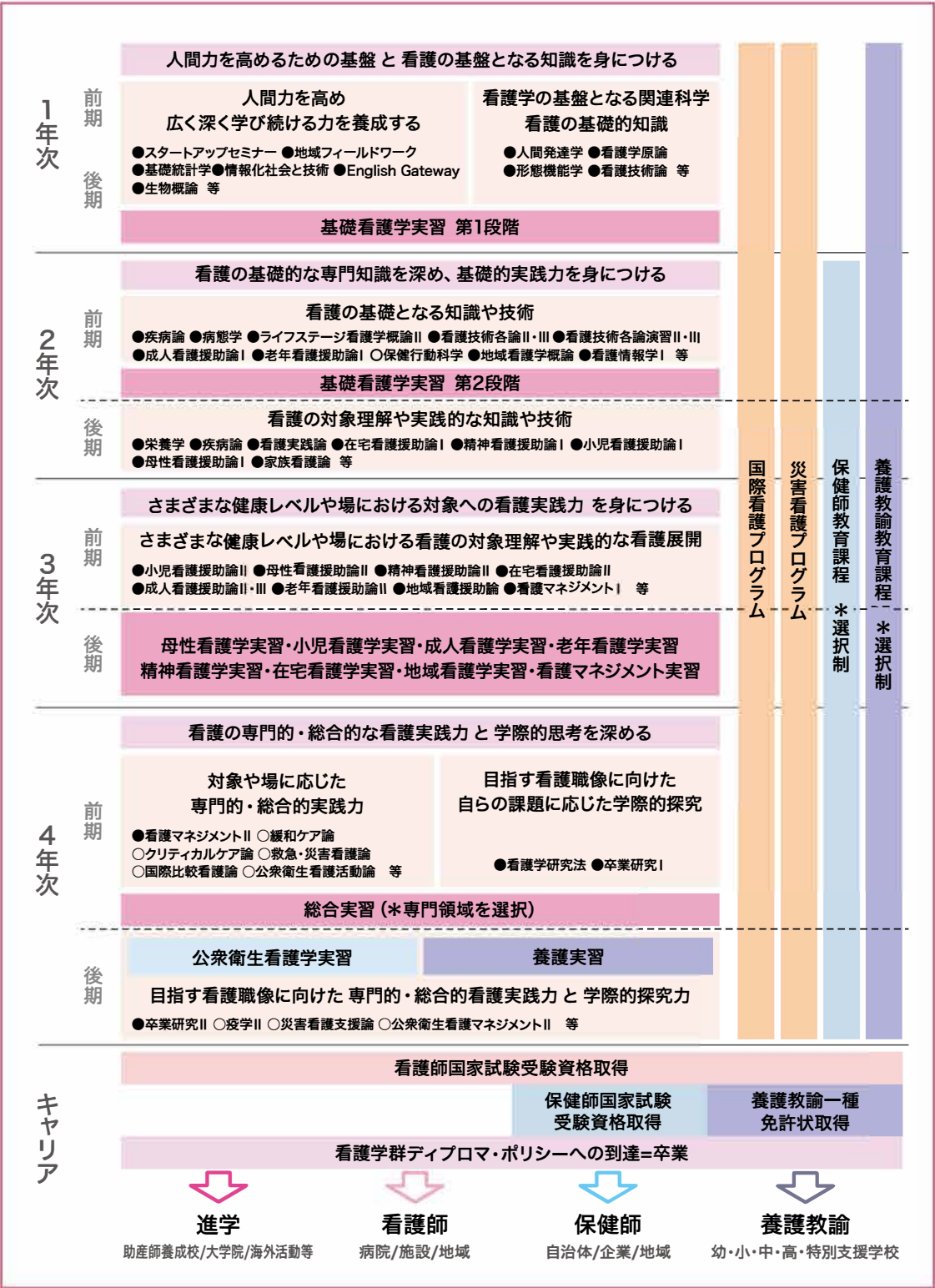
基盤教育を含む教育課程の一覧は、「Ⅵ学群」の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

Ⅵ. 看護学群

1 看護学群看護学類について

(1) 看護学群での学びとキャリア
看護学群の理念は、歴史・文化の中で継承されてきた看護という全人格的、社会的行為を学問的に探究し、研究・教育を通して社会に還元することです。看護学を「人間の生命活動全般にわたる、サイエンスとアートを統合した実践科学」として捉え、時代や社会のニーズを見通し、新たな看護学を創造する力を養うことが重要と考えています。
看護学群では、ヒューマンケアを中核とした創造的看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に広く活躍できる看護職を目指して学修します。そのためには、生命の尊厳を基盤とする“豊かな人間力”と“高い倫理観”を備えて、科学的思考力とマネジメント能力を身につける必要があります。人間力を高めるために「フレッシュマンコア」科目を中心とする基盤教育科目に加えて、1年次から看護学の学問体系に即して、講義、演習、実習科目を関連づけ、積み上げながら、看護実践力を獲得できるよう主体的に学修します。
卒業後の道には、看護師のみならず、保健師（養護教諭二種）または養護教諭一種、助産師養成校や大学院等への進学があります。将来目指す看護職像に向けて、入学時から必要な授業科目を選択し、学修します。

看護学群での学び

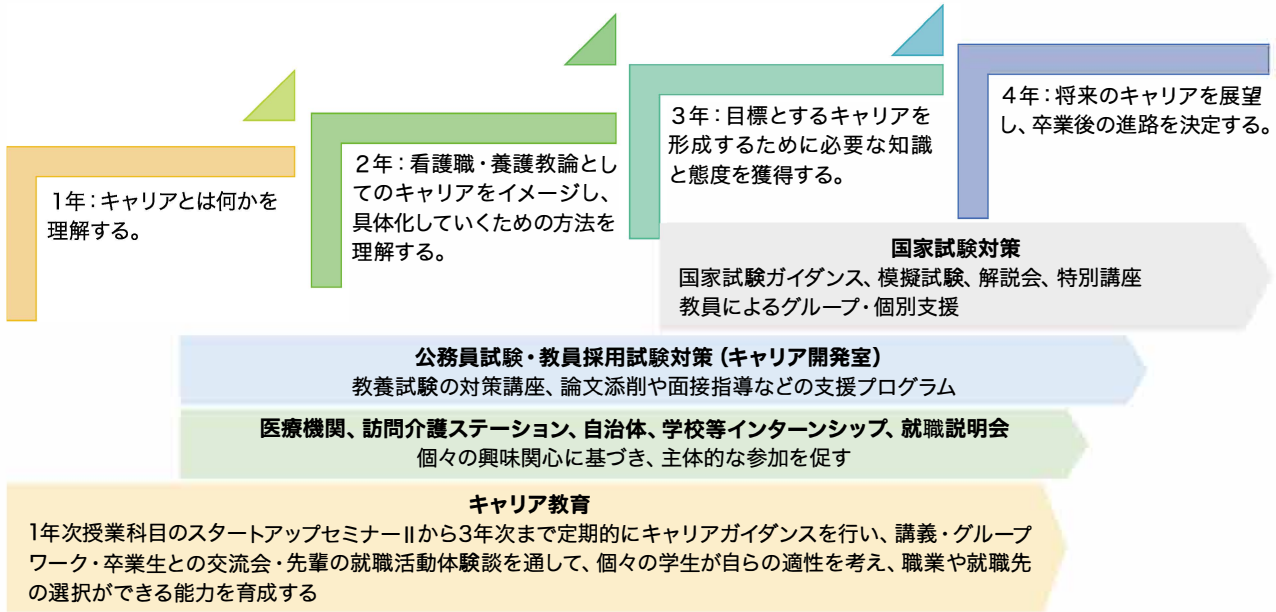


(2) 看護学群でのキャリア開発支援

看護職はあらゆる場において、人々の健康と生活を支援する専門職であり、自己成長力(成長し続ける力)を獲得することが重要です。そのため、入学時から自身のキャリアを見つめ、目標の実現に向かって主体的に取り組みます。例えば、資格取得に向けた科目を自ら選択し、国家試験を受験し合格する、あるいは免許状を取得するなどがあります。

キャリアの主体は学生個人であり、主体的に取り組むことは、社会人として求められる基本的な力です。看護学群では、自己を見つめ、自身の将来を自ら選択し創造できることを目指して、個々の学生が自分の適性を考え、卒業後の進路を決定できるよう各学年次の目標を設定し、段階的にキャリア開発支援を行っています。

看護学群でのキャリア開発支援



(3) 看護学類の教育目標

	ディプロマ・ポリシー (DP)	カリキュラム・ポリシー (CP)
学類共通	看護学群では、以下の要件を満たした学生に学士(看護学)の学位を授与する。	看護学群看護学類では、看護学の基盤となる知識・技術を身につける専門基礎科目と看護学の専門性を深め、広げる専門科目を学年進行に沿って体系的に配置する。看護専門職としての共通基盤を形成する看護師教育課程と共に、看護学の専門性を広げる保健師教育課程ならびに養護教諭教育課程を置く。 学修成果の評価は、シラバスで設定されている各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づいて厳格に行う。
1 知識・技術	対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	看護学の関連科目や、看護の各専門分野における知識と技術を身につける科目を配置し、実習室での演習や見学実習等を取り入れた実践的な教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象者である人の心身の発達過程や人体の構造・機能について学ぶ科目、人々の健康を守る上で必要となるさまざまな病気の成り立ちや症状・病変の特徴と治療や回復過程および、疾病の予防と健康の維持・増進について学ぶ科目を置く。 専門科目として、看護学の基礎となる知識と概念、看護が行われる場や看護を提供するシステム、看護に有用なICTの活用等について学ぶ科目や、対象者のニーズを充足する上で必要となる基本的な援助技術を身につける科目、さらにさまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考に基づく判断と根拠に基づいた援助技術を身につける科目を置く。
2 思考力・判断力	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づき適切な臨床判断ができる。	講義科目と演習科目ならびに実習科目を連動させ、人々の健康に関わる課題を、科学的思考過程を経て明確化し、適切な臨床判断に基づいた課題解決につなげる教育を行う。 専門基礎科目として、医療における情報の収集や分析、伝達等に関する基本的な性質や特徴を理解し、問題解決手法の基礎等について学ぶ科目を置く。 専門科目として、さまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考による判断と根拠に基づいた技術を通して、ニーズに即したケアを展開する基礎的能力を身につける科目を置く。
3 表現力	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	グループ学習を取り入れ、ディスカッションや実習室での演習、実演、実習等を通して人との関係づくりについて体験的に学び合う教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象となる人と良好な関係性を築きながら看護を实践する上で必要な倫理観や洞察力、コミュニケーション能力等を養う科目を置く。 専門科目として、個人や家族、集団と関わり、援助を实践する過程において必要となる基本的なアプローチの方法や、振り返りを通して自らの援助技術を高める方法等について学ぶ科目を置く。
4 主体性	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	看護専門職を目指す上で基盤となる科目とともに、幅広い視野から看護を学ぶ科目を配置する。学修過程を振り返る機会を通して、看護専門職として目指す方向性の選択を支援する教育を行う。最終年次においては、個々の学生が関心を持った看護専門領域や課題を選択して実習や研究に取り組み、看護専門職として主体的に学び続けるための基本的態度を養う教育を行う。 専門科目として、人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けた看護を主体的に展開する総合的実践力を身につけるための科目や、看護現象を科学的に分析し、看護実践の向上を目指す研究的態度を身につけるための科目を置く。
5 協働性	社会のニーズに対応したヘルスケアシステムを作るチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。	講義により基礎的な知識や態度を身につけ、演習や実習での多様な人々とのコミュニケーションや関わりを通して、看護専門職として、人や地域社会が抱える健康課題を解決するための基本的態度を養う教育を行う。 専門科目として、地域のケアシステム、関係職種による連携・協働、社会資源の活用を通して、地域療養を支援する実践能力を身につける科目や、質の高い看護を組織的に提供するためのマネジメントやチーム医療における看護専門職の役割、医療者間の協働とコミュニケーションについて学ぶ科目を置く。

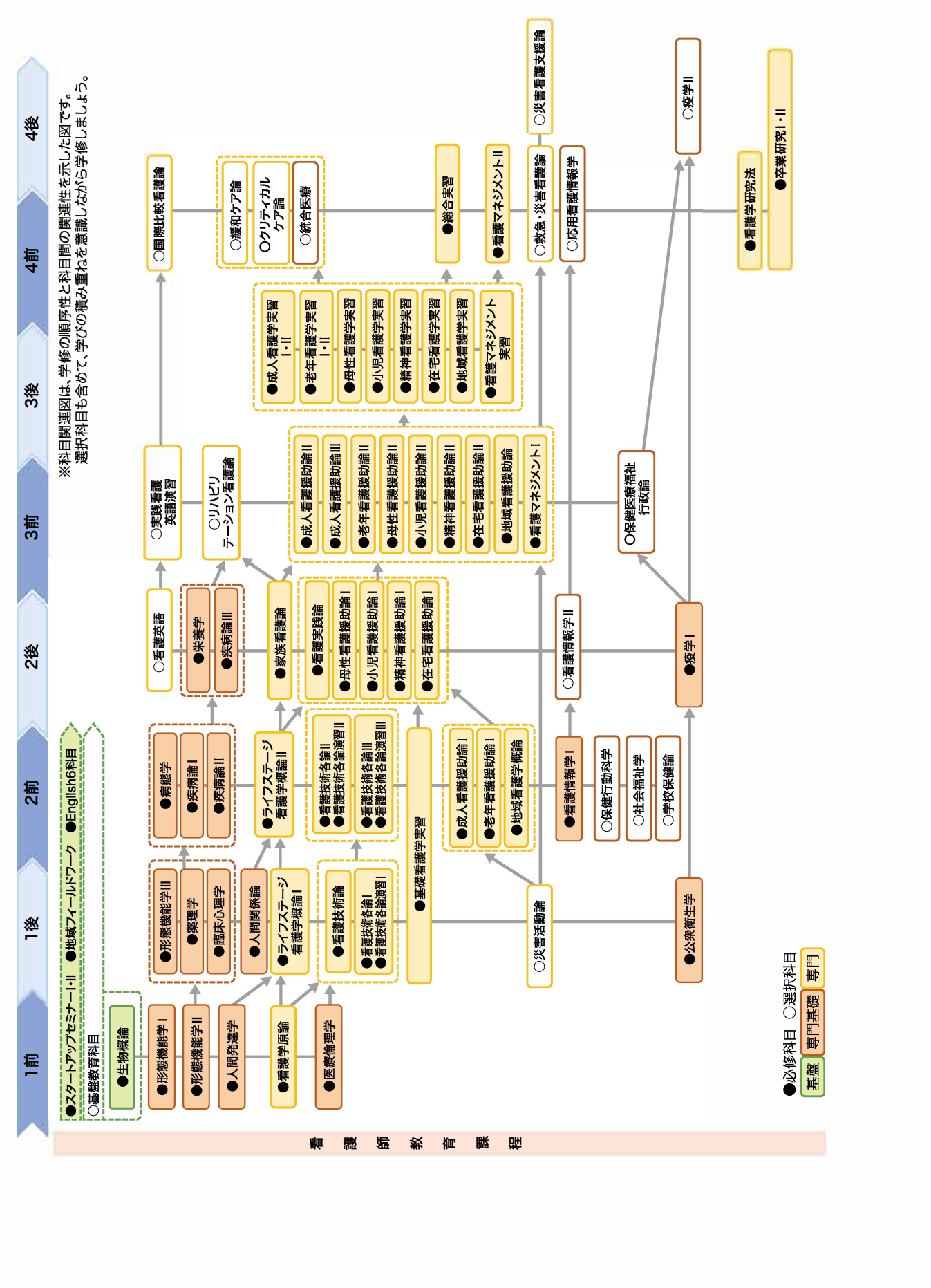
(5) 看護学類の科目関連図

科目関連図は、学修の順序性と科目間の関連性を示した図です。矢印が学修の順序性を示し、縦の線が科目間の関連を示します。看護学類の専門基礎科目と専門科目は、すべて関連しています。各自が選択する教育課程に応じて、学修目的に合わせて選択科目を履修します。それぞれの開講時期に学修する科目を関連づけて、学びの積み重ねを意識しながら学修しましょう。

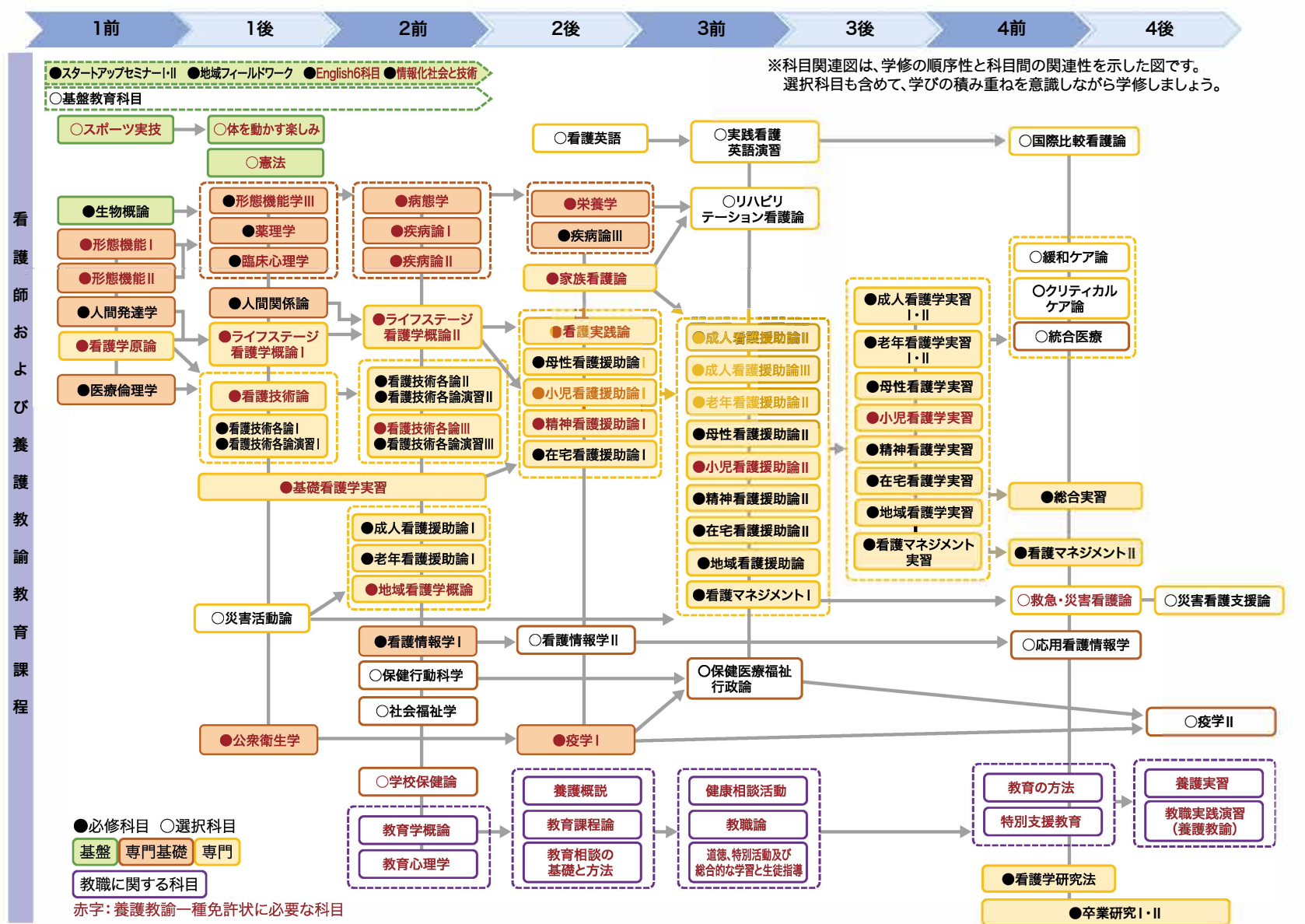
科目配当年次

年次	基礎教育科目	保健師教育課程科目 養護教諭教育課程科目	専門基礎科目（看護師・保健師・養護教諭教育課程共通） 専門科目（看護師・保健師・養護教諭教育課程共通）	教育の方法 特別支援教育	就職実践演習（養護教諭） 養護実習
4年次				●看護学研究法 ＜疫学Ⅱ＞	●卒業研究Ⅰ ●卒業研究Ⅱ ＜公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ＞ ＜公衆衛生看護マネジメントⅠ・Ⅱ＞ ＜クリティカルケア論＞ ●総合実習（基礎・母性・小児・成人・老年・精神・在宅・地域・看護管理・学校看護） ＜応用看護情報学＞ ＜統合医療＞
3年次				道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導 ●成人看護学実習Ⅰ ●成人看護学実習Ⅱ ●地域看護学実習	健康相談活動 ●小児看護学実習 ●看護マネジメント実習 ●看管マナジメント実習 ●成人看護学実習Ⅱ ●精神看護学実習 ●在宅看護学実習 ●老年看護学実習Ⅱ
2年次				教育相談の基礎と方法 教育心理学 養護概説	教職論 健康相談活動
1年次				教育相談の基礎と方法 教育心理学 養護概説	健康相談活動

●：必修科目 ◇：選択科目 保健師：資格取得に必修 養護教諭：資格取得に必修



③看護学類科目関連図（養護教諭教育課程） 2022年度以降



2 看護学類の科目配当

(1) 看護師教育課程科目配当表

【凡例】●：必修科目 災：災害看護プログラム科目 国：国際看護プログラム科目 ※：フレッシュマンコア科目

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件	
			前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
			履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位		
基盤教育科目	科 導 目 入	必修	●※：スタートアップセミナーⅠ ●※：地域フィールドワーク	2 1	●※：スタートアップセミナーⅡ	2												5単位修得	必修を含めて 25単位以上修得	
	統 情 計 報		●※：コンピューターリテラシー	2	●※：情報化社会と技術 ●※：基礎統計学Ⅰ	2 2	基礎統計学Ⅱ	2									6単位以上修得			
	コ ミ ュ ニ ケー ション		●国※：English GatewayⅠ ●国※：English Self-ExpressionⅠ	1 1	●国※：English GatewayⅡ ●国※：English Self-ExpressionⅡ	1 1	●国※：English for Academic Purposes ●国※：English Expedition	1 1									6単位修得			
			国：中国語Ⅰ 国：韓国語Ⅰ 国：スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1 1 1	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 国際日本学/Japanology グローバル・ビジネス	1 1 1 2 2	国：University English 国：Academic Writing 国：Academic Reading	1 1 1												
			国：国際関係論 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 1 2	憲法 政治学概論 社会と経済 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2 2 2														
	社会科学		生命科学 数学概論 物理概論 化学概論 ●生物概論	2 2 2 2 2	数理科学 環境学概論 地球と宇宙	2 2 2										必修科目を含めて 8単位以上修得				
	自然科学		現代メディアカルチャー論 音楽 美術演習 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 2 1 2 2 2 2	美術 音楽演習 文学	2 1 2														
	芸術・人文学		心理学 健康科学 スポーツ科学 スポーツ実技 食と社会	2 2 1 1 1	体を動かす楽しみ 福祉入門	1 1														
	人間科学		アントレプレナー基礎（集中）	2			コミュニティ・プランナー概論及び演習	2												
	基礎実践		留学生	日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ	1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1	留学生は日本語Ⅳ 以外必修								留学生のみ 履修可能
全学共通科目			グローバルインターシップ（集中） 学外研修（集中）	2 2													全学共通科目は 卒業要件単位に 含まない			
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●人間発達学 ●医療倫理学 ●形態機能学Ⅰ ●形態機能学Ⅱ	2 2 1 1	●臨床心理学 ●人間関係論 ●形態機能学Ⅲ ●薬理学 ●公衆衛生学	2 2 1 2 2	●病態学 ●疾病論Ⅰ ●疾病論Ⅱ ●看護情報学Ⅰ	2 1 1 1	●栄養学 ●疫学Ⅰ ●疾病論Ⅲ	2 2 1							必修科目を含めて 25単位以上修得			
		選択	各自の学修目的・目標に 合わせて履修				保健行動科学 社会福祉学 学校保健論	2 2 2	看護情報学Ⅱ	1	保健医療福祉行政論	2			応用看護情報学 統合医療	1 2	疫学Ⅱ	2		
	専門科目	必修	●看護学原論	2	●ライフステージ看護学概論Ⅰ ●看護技術論 ●看護技術各論Ⅰ ●看護技術各論演習Ⅰ	2 2 1 1	●ライフステージ看護学概論Ⅱ ●看護技術各論Ⅱ ●看護技術各論Ⅲ ●看護技術各論演習Ⅱ ●看護技術各論演習Ⅲ	2 1 1 1 1	●看護実践論 ●家族看護論 ●母性看護援助論Ⅰ ●小児看護援助論Ⅰ ●小児看護援助論Ⅱ ●精神看護援助論Ⅰ ●在宅看護援助論Ⅰ	1 2 2 2 2 2 2	●地域看護援助論 ●母性看護援助論Ⅱ ●小児看護援助論Ⅱ ●精神看護援助論Ⅱ ●在宅看護援助論Ⅱ ●老年看護援助論Ⅱ ●成人看護援助論Ⅱ ●成人看護援助論Ⅲ ●看護マネジメントⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2	●地域看護学実習 ●母性看護学実習 ●小児看護学実習 ●精神看護学実習 ●在宅看護学実習 ●老年看護学実習Ⅰ ●老年看護学実習Ⅱ ●成人看護学実習Ⅰ ●成人看護学実習Ⅱ ●看護マネジメント実習	1 2 2 2 2 2 2 2 2	●看護学研究法 ●総合実習 ●卒業研究Ⅰ ●看護マネジメントⅡ	2 2 2 2	●卒業研究Ⅱ	1		
		選択	深めたい専門知識・ 技術に合わせて履修		災：災害活動論	2			国：看護英語 公衆衛生看護学原論	1 2	国：実践看護英語演習 リハビリテーション看護論 公衆衛生看護援助論Ⅰ 公衆衛生看護援助論Ⅱ	1 2 2 2			災 救急・災害看護論 国 国際比較看護論 緩和ケア論 クリティカルケア論 公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護活動論Ⅲ 公衆衛生看護マネジメントⅠ	2 2 1 1 2 2 2 2	災 災害看護支援論 公衆衛生看護マネジメントⅡ 公衆衛生看護マネジメント演習	2 2 1	（※公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは 保健師教育課程選択者のみ履修可）	
	看護教諭教育課程 （卒業要件外）						教育学概論 教育心理学	2 2	教育課程論 教育相談の基礎と方法 看護概説	2 2 2	教職論 健康相談活動 道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2 2 2			教育の方法 特別支援教育	2 1	（※看護実習と教職実践演習（看護教諭） は看護教諭教育課程選択者のみ履修可）			
履修条件	必修単位数		基盤教育科目：17単位 専門教育科目：23単位				基盤教育科目：2単位 専門教育科目：36単位				専門教育科目：36単位				専門教育科目：8単位				122単位	
	選択必修単位数		基盤教育科目：6単位																6単位以上	
	履修単位数の上限		49単位				49単位				49単位				49単位				必要単位数：128単位以上	

2 看護学類の科目配当

(2) 保健師教育課程科目配当表

【凡例】●：必修科目 災：災害看護プログラム科目 国：国際看護プログラム科目 ※：フレッシュマンコア科目

科目区分			1年次						2年次						3年次						4年次						卒業要件	
			前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期				
			履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位	履修 科目名	単位				
基盤教育科目	科目導入	必修	●※：スタートアップセミナーⅠ ●※：地域フィールドワーク	2 1	●※：スタートアップセミナーⅡ	2																		5単位修得	必修を 含めて 25単位以上修得			
	統計情報		●※：コンピューターリテラシー	2	●※：情報化社会と技術 ●※：基礎統計Ⅰ	2 2	基礎統計Ⅱ	2																6単位以上修得				
	グローバルコミュニケーション		●国※：English GatewayⅠ ●国※：English Self-ExpressionⅠ	1 1	●国※：English GatewayⅡ ●国※：English Self-ExpressionⅡ	1 1	●国※：English for Academic Purposes ●国※：English Expedition	1 1	留学生は2単位以上 選択必修														6単位修得					
	社会科学		国：中国語Ⅰ 国：韓国語Ⅰ 国：スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1 1 1	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 国際日本学/Japanology グローバル・ビジネス	1 1 1 2 2	国：University English 国：Academic Writing 国：Academic Reading	1 1 1																必修科目を 含めて 8単位以上修得				
	自然科学		国：国際関係論 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 1 2	憲法 政治学概論 社会と経済 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2 2 2																						
	芸術・人文学		●生命科学 数学概論 物理概論 化学概論 ●生物概論	2 2 2 2 2	数理科学 環境学概論 地球と宇宙	2 2 2																						
	人間科学		現代メディアカルチャー論 音楽 美術演習 日本の歴史と文化 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 2 1 2 2 2 2	美術 音楽演習 文学	2 1 2																						
	基礎実践		心理学 健康科学 スポーツ科学 スポーツ実技 食と社会	2 2 1 1 1	体を動かす楽しみ 福祉入門	1 1																						
			アントレプレナー基礎（集中）	2			コミュニティ・プランナー概論及び演習	2																				
		留学生		日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ	1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1	留学生は日本語Ⅳ 以外必修												留学生のみ 履修可能	必修を 含めて 128単位以上修得			
全学共通科目			グローバルインターシップ（集中） 学外研修（集中）	2 2																			全学共通科目は 卒業要件単位に 含まない					
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●人間発達学 ●医療倫理学 ●形態機能学Ⅰ ●形態機能学Ⅱ	2 2 1 1	●臨床心理学 ●人間関係論 ●形態機能学Ⅲ ●薬理学 ●保：公衆衛生学	2 2 1 1 2	●病理学 ●疾病論Ⅰ ●疾病論Ⅱ ●看護情報学Ⅰ	2 1 1 1	●栄養学 ●保：疫学Ⅰ ●疾病論Ⅲ	2 2 1													必修科目を 含めて 25単位以上修得					
		必修選択										●保：保健医療福祉行政論	2					●保：疫学Ⅱ	2									
		選択	各自の学修目的・目標に 合わせて履修				保健行動科学 社会福祉学 学校保健論	2 2 2	看護情報学Ⅱ	1					応用看護情報学 統合医療	1 2												
	専門科目	必修	●看護学原論	2	●ライフステージ看護学概論Ⅰ ●看護技術論 ●看護技術各論Ⅰ ●看護技術各論演習Ⅰ ●看護技術各論演習Ⅲ ●基礎看護学実習	2 2 1 1 1 3	●ライフステージ看護学概論Ⅱ ●看護技術各論Ⅱ ●看護技術各論Ⅲ ●看護技術各論演習Ⅱ ●看護技術各論演習Ⅲ ●地域看護学概論 ●老年看護援助論Ⅰ ●成人看護援助論Ⅰ	2 2 1 1 1 2 2 2 2	●看護実践論 ●家族看護論 ●母性看護援助論Ⅰ ●小児看護援助論Ⅰ ●精神看護援助論Ⅰ ●精神看護援助論Ⅱ ●在宅看護援助論Ⅰ	1 2 2 2 2 2 2	●地域看護援助論 ●母性看護援助論Ⅱ ●小児看護援助論Ⅱ ●精神看護援助論Ⅱ ●在宅看護援助論Ⅱ ●老年看護援助論Ⅱ ●成人看護援助論Ⅱ ●成人看護援助論Ⅲ ●保：看護マネジメントⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2 2	●地域看護学実習 ●母性看護学実習 ●小児看護学実習 ●精神看護学実習 ●在宅看護学実習 ●老年看護学実習Ⅰ ●老年看護学実習Ⅱ ●成人看護学実習Ⅰ ●成人看護学実習Ⅱ ●看護マネジメント実習	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	●看護学研究法 ●総合実習 ●卒業研究Ⅰ ●看護マネジメントⅡ	2 2 1 2	●卒業研究Ⅱ	1										
		選択必修							●保：公衆衛生看護学原論	2	●保：公衆衛生看護援助論Ⅰ ●保：公衆衛生看護援助論Ⅱ	2 2		●保：公衆衛生看護活動論Ⅰ ●保：公衆衛生看護活動論Ⅱ ●保：公衆衛生看護活動論Ⅲ ●保：公衆衛生看護マネジメントⅠ ●保：公衆衛生看護学実習Ⅰ	2 2 2 2 1	2●保：公衆衛生看護マネジメントⅡ 2●保：公衆衛生看護マネジメント演習 2●保：公衆衛生看護学実習Ⅱ 2●保：公衆衛生看護学実習Ⅲ	2 1 3 1											
		選択	深めたい専門知識・ 技術に合わせて履修		災：災害活動論	2			国：看護英語	1	国：実践看護英語演習 リハビリテーション看護論	1 2		災：救急・災害看護論 国：国際比較看護論 緩和ケア論 クリティカルケア論	2 2 1 1	2災：災害看護支援論	2											
看護教諭教育課程 （卒業要件外）						教育学概論 教育心理学	2 2	教育課程論 教育相談の基礎と方法 看護概説	2 2 2	教職論 健康相談活動 道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2 2 2		教育の方法 特別支援教育	2 1	（※看護実習と教職実践演習（看護教諭） は看護教諭教育課程選択者のみ履修可）													
履修条件	必修単位数		基盤教育科目：17単位 専門教育科目：23単位				基盤教育科目：2単位 専門教育科目：36単位				専門教育科目：36単位				専門教育科目：8単位				122単位									
	選択必修単位数						専門科目：2単位				専門基礎科目：2単位 専門科目：4単位				専門基礎科目：2単位 専門科目：16単位				6単位以上 26単位									
	履修単位数の上限		49単位				49単位				49単位				49単位				必要単位数：154単位以上									

2 看護学類の科目配当

(3) 養護教諭教育課程科目配当表

【凡例】●：必修科目 災：災害看護プログラム科目 国：国際看護プログラム科目 ※：フレッシュマンコア科目

科目区分			1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件	
			前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位
基盤教育科目	科目導入 統計情報	必修	●※：スタートアップセミナーⅠ	2	●※：スタートアップセミナーⅡ	2													5単位修得	必修科目を含めて 25単位以上修得
			●※：地域フィールドワーク	1															6単位以上修得	
	●※：コンピューターリテラシー	2	●※：情報化社会と技術	2	●※：基礎統計学Ⅰ	2	基礎統計学Ⅱ	2										6単位修得	必修科目を含めて 8単位以上修得	
	●※：English GatewayⅠ	1	●※：English GatewayⅡ	1	●※：English for Academic Purposes	1														
	●※：English Self-ExpressionⅠ	1	●※：English Self-ExpressionⅡ	1	●※：English Expedition	1														
	国：中国語Ⅰ	1	中国語Ⅱ	1	国：University English	1														
	国：韓国語Ⅰ	1	韓国語Ⅱ	1	国：Academic Writing	1														
	国：スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1	国：Academic Reading	1														
	国：国際関係論	2	●※：憲法	2																
	国：社会と哲学	2	政治学概論	2																
国：人口学概論	1	社会と経済	2																	
国：文化人類学概論	2	現代東北社会論	2																	
国：社会の諸相	2																			
生命科学	2	数理科学	2																	
数学概論	2	環境学概論	2																	
物理概論	2	地球と宇宙	2																	
化学概論	2																			
●※：生物概論	2																			
現代メディアカルチャー論	2	美術	2																	
音楽	2	音楽演習	1																	
美術演習	1	文学	2																	
日本の歴史と文化	2																			
世界の歴史と文化	2																			
東北の歴史と文化	2																			
人と宗教	2																			
心理学	2	●※：体を動かす楽しみ	1																	
健康科学	2	福祉入門	1																	
スポーツ科学	1																			
●※：スポーツ実技	1																			
食と社会	1																			
アントレプレナー基礎（集中）	2					コミュニティ・プランナー概論及び演習	2													
日本語Ⅰ	1	日本語Ⅱ	1			日本語Ⅲ	1													
日本語事情Ⅰ	2	日本語事情Ⅱ	2					日本語Ⅳ	1											
留学生																				
全学共通科目																				
グローバルインターシップ（集中）	2																			
学外研修（集中）	2																			
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●※：人間発達学	2	●※：臨床心理学	2	●※：病態学	2	●※：栄養学	2									必修科目を含めて 25単位以上修得	
			●※：医療倫理学	2	●※：人間関係論	2	●※：疾病論Ⅰ	1	●※：疫学Ⅰ	2										
		●※：形態機能学Ⅰ	1	●※：形態機能学Ⅲ	1	●※：疾病論Ⅱ	1	●※：疾病論Ⅲ	1											
	●※：形態機能学Ⅱ	1	●※：薬理学	2	●※：看護情報学Ⅰ	1														
	●※：公衆衛生学	2	●※：学校保健論	2																
	各自の学修目的・目標に合わせて履修																			
	保健行動科学	2	看護情報学Ⅱ	1	保健医療福祉行政論	2	応用看護情報学 統合医療	1 2	疫学Ⅱ	2										
	社会福祉学	2																		
	専門科目	必修	●※：看護学原論	2	●※：ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	●※：ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	●※：看護実践論	1	●※：地域看護援助論	2	●※：地域看護学実習	1	●※：卒業研究Ⅱ	1	必修科目を含めて 78単位以上修得			
			●※：看護技術論	2	●※：看護技術各論Ⅱ	2	●※：家族看護論	1	●※：母性看護援助論Ⅱ	2	●※：母性看護学実習	2								
●※：看護技術各論Ⅰ		1	●※：看護技術各論Ⅲ	1	●※：母性看護援助論Ⅰ	2	●※：小児看護援助論Ⅰ	2	●※：小児看護学実習	2										
●※：看護技術各論演習Ⅰ	1	●※：看護技術各論演習Ⅱ	1	●※：小児看護援助論Ⅱ	2	●※：精神看護援助論Ⅰ	2	●※：精神看護学実習	2											
●※：看護技術各論演習Ⅲ	1	●※：精神看護援助論Ⅰ	2	●※：在宅看護援助論Ⅰ	2	●※：在宅看護学実習	2	●※：在宅看護学実習	2											
●※：基礎看護学実習	3	●※：在宅看護援助論Ⅰ	2	●※：老年看護援助論Ⅰ	2	●※：老年看護学実習Ⅰ	1	●※：老年看護学実習Ⅱ	2											
●※：地域看護学概論	2	●※：成人看護援助論Ⅲ	2	●※：成人看護学実習Ⅱ	2	●※：成人看護学実習Ⅲ	2	●※：成人看護学実習Ⅲ	2											
●※：成人看護援助論Ⅰ	2	●※：看護マネジメントⅠ	2	●※：看護マネジメント実習	2															
●※：看護マネジメントⅡ	2																			
災害看護学	2																			
災害活動論	2																			
国：看護英語	1																			
公衆衛生看護学原論	2																			
国：実践看護英語演習	1																			
リハビリテーション看護論	2																			
公衆衛生看護援助論Ⅰ	2																			
公衆衛生看護援助論Ⅱ	2																			
国：国際比較看護論	1																			
緩和ケア論	2																			
クリティカルケア論	1																			
公衆衛生看護活動論Ⅰ	2																			
公衆衛生看護活動論Ⅱ	2																			
公衆衛生看護活動論Ⅲ	2																			
公衆衛生看護マネジメントⅠ	2																			
●※：教育の方法	2																			
●※：特別支援教育	2																			
●※：災害看護支援論	2																			
●※：公衆衛生看護マネジメントⅡ	1																			
●※：公衆衛生看護マネジメント演習Ⅰ	1																			
●※：公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは 保健師教育課程選択者のみ履修可	2																			
●※：養護実習	5																			
●※：教職実践演習（養護教諭）	2																			
養護教諭教育課程（卒業要件外）																				
●※：教育学概論	2	●※：教育課程論	2	●※：教職論	2	●※：教育の方法	2	●※：災害看護支援論	2	●※：公衆衛生看護マネジメントⅡ	1	●※：公衆衛生看護マネジメント演習Ⅰ	1	●※：公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは 保健師教育課程選択者のみ履修可	2	●※：養護実習	5	●※：教職実践演習（養護教諭）	2	26単位修得 （卒業要件外）
●※：教育心理学	2	●※：教育相談の基礎と方法	2	●※：健康相談活動	2	●※：道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	2	●※：国際比較看護論	2	●※：災害看護支援論	2	●※：公衆衛生看護マネジメントⅡ	1	●※：公衆衛生看護マネジメント演習Ⅰ	1	●※：養護実習	5	●※：教職実践演習（養護教諭）	2	26単位修得 （卒業要件外）
●※：看護概説	2																			
履修条件	必修単位数	基盤教育科目：17単位 専門教育科目：23単位				基盤教育科目：2単位 専門教育科目：36単位 卒業要件外：10単位				専門教育科目：36単位 卒業要件外：6単位				専門教育科目：8単位 卒業要件外：10単位				148単位		
	選択必修単位数	基盤教育科目：6単位（「憲法」・「スポーツ実技」・「からだを動かす楽しみ」含む）				専門基礎科目：2単位								専門科目：2単位				6単位以上 4単位		
	履修単位数の上限	49単位				49単位				49単位				49単位				必要単位数：158単位以上		

3 卒業に必要な単位数及び卒業要件

卒業するためには4年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。
卒業時には、看護学群のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）5項目について、4年間の学修成果を自己評価及び教員評価します。この評価結果は、卒業判定の参照資料となります。

区分		配当単位数	必修単位数	選択必修	選択	必要単位数	
基盤教育科目	導入科目	5	5	0	0	5単位	25 単位以上
	実践基礎	4	0	0	必修 以外に 6以上を 選択	指定しない	
	情報統計	8	6	0		6単位	
	グローバル コミュニケーション	19	6	0		6単位 （留学生：2単位以上 選択必修）	
	社会科学	17	0	0		指定しない	
	自然科学	16	2	0		2単位	
	芸術・人文学	18	0	0		指定しない	
	人間科学	9	0	0		指定しない	
	留学生対象	留学生のみ 8	留学生のみ 7	0	0	留学生のみ 7単位以上	
	全学共通科目	4	0	0	0	（卒業要件外）	
専門教育科目	専門基礎科目	43	25	0	0	25単位以上	
	専門科目	102	78	0	0	78単位以上	
養護教諭教育課程（卒業要件外）		26	0	26	0	（卒業要件外）	
合計		279	卒業要件単位数			128単位以上	

4 教育課程の特色

看護学群のカリキュラムは、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（厚生労働省）及び看護学教育モデル・コア・カリキュラム（文部科学省）で示されている看護学の体系を網羅しています。また、養護教諭教育課程は、教育職員免許法及び同施行規則（文部科学省）に基づき編成しています。
看護学類では、全学生が看護師教育課程を学修します。
看護学類のカリキュラムは、基盤教育科目と専門教育科目で構成されています。

基盤教育科目

詳細は履修ガイドV基盤教育の章を確認してください。

専門教育科目

専門基礎科目

専門基礎科目は、看護の基礎になる科目群です。
人を深く理解し、洞察できるように必要な科目、健康について多角的に理解するために必要な科目です。

専門科目

看護学を専門的に学修する科目群です。
発達段階の特徴や看護活動の場の特徴などによる看護専門領域（基礎看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学、在宅看護学、看護マネジメント、学校看護）に関する科目です。

（1）看護師教育課程

看護師教育課程は卒業に必要な必修科目と選択科目で構成されています。また、看護師国家試験受験資格に必要な教育課程です。
看護学類科目関連図（看護師教育課程）p40、看護師教育課程配当表p44-p45を参照ください。

1年次では、基盤教育科目、専門基礎科目とあわせて、看護とは何かを学ぶ「看護学原論」、人の発達の特徴を捉えた看護を学ぶ「ライフステージ看護学概論」、看護学の基礎的知識と技術を修得する「看護技術論」などを学修します。2～3年次では、各看護専門領域に関する科目について学修します。また、3年次後期では、臨地実習において看護実践力を養います。4年次では、3年次までに学んだ看護学を応用する能力および研究的視点を養うため、総合実習や卒業研究を配置しています。

また、卒業時に身につけていることが望まれる“看護職としての核となる能力”（看護学士課程教育で求められるコアコンピテンシー、日本看護系大学協議会）を主体的に獲得できるように、宮城大学での卒業時到達目標と関連科目を位置付けています。そして、卒業時到達目標に向かって主体的に学びを積み重ねていくために、卒業までの道のりの途中で自分の学びを振り返り、自己評価するツール「学びの振り返り」を用いています。

（2）保健師教育課程

保健師教育課程は、保健師国家試験受験資格に必要な教育課程です。看護学類科目関連図（保健師教育課程）p41、保健師教育課程配当表p46-p47を参照ください。

4年次の公衆衛生看護学実習履修にあたっては、3年次後期にレポート及び看護学実習における学修状況を踏まえた面接を行います。

また、保健師課程では、卒業時に修得しておくことが望まれる“保健師としての実践能力”「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度（厚生労働省）」を主体的に獲得できるよう授業科目を配置しています。

なお、保健師免許を取得後、申請により第一種衛生管理者、養護教諭二種免許状が取得できます。ただし、養護教諭二種免許状の申請を希望する場合は、「日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作」4科目、各2単位の履修が必要です（教育職員免許法施行規則第66条の6）。本学では、外国語コミュニケーションと情報機器の操作に関する科目は必修科目に含まれていますが、加えて、1年次基盤教育科目「憲法」「スポーツ実技」「体を動かす楽しみ」を選択し、修得することが必要ですので留意してください。

（3）養護教諭教育課程

養護教諭教育課程は、養護教諭一種免許状取得に必要な教育課程です。教員共通に求められる実践力、および養護教諭の専門性に関わる実践力（看護学士課程で養成する養護教諭のコアコンピテンシーと卒業時到達目標）一般社団法人日本看護系大学協議会養護教諭養成教育検討会）を主体的に獲得できるよう、授業科目を配置しています。卒業要件に看護師教育課程の科目履修が必要ですので、看護師教育課程の科目に加えて、養護教諭教育課程の科目を履修する必要があります。看護学類科目関連図（養護教育課程）p42、養護教育課程配当表p48-p49を参照ください。

4年次の養護実習履修にあたっては、3年次後期に養護教諭一種免許状に必要な科目の履修状況、養護実習の履修意思について、面接を行います。

(4)災害看護プログラム

災害看護プログラムは、災害直後をはじめ災害サイクル各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を備え、将来、医療・行政・学校等の各分野において災害看護の一端を担える能力を養うプログラムです。国家資格ではありませんが、4年間にわたり災害看護に関する学修や経験を重ねたポートフォリオを提出した者に災害看護プログラム修了証を授与します。

災害看護プログラム修了に必要な科目

学年	学期	災害看護プログラム構成科目
1年次	後期	災害活動論
3年次	前期	看護マネジメントⅠ
4年次	前期	救急・災害看護論
	後期	災害看護支援論

※4年間にわたる災害看護に関する学修や経験を重ねたポートフォリオ作成のこと。
※卒業研究で災害看護をテーマとして取り組むことを推奨する。

(5)国際看護プログラム

国際看護プログラムは、国際協力の現場や国内における看護の場で、異文化の人々を理解し、看護を実践し、関係者と協働できるための基盤となる能力の修得を支援するプログラムです。国家資格ではありませんが、4年間にわたり国際看護に関する学修をすべて修得すると国際看護プログラム修了証を授与します。

実践看護英語演習では、海外研修を含みます。この海外研修にあたる下記の必要事項については、2年次後期に面接および書面にて確認します。

- ・原則として、TOEIC500点以上、またはそれに相当する英語力がある。
- ・保証人の同意がある(保証人の同意書の提出)
- ・海外研修に伴う諸経費の負担が可能である。

国際看護プログラム修了に必要な科目

学年	学期	必ず履修する9科目	以下の指定科目から選択1科目以上
1年次	前期	English GatewayⅠ English Self-ExpressionⅠ	国際関係論 中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ スペイン語Ⅰ
	後期	English GatewayⅡ English Self-ExpressionⅡ	
2年次	前期	English for Academic Purposes English Expedition	
	後期	看護英語	Academic Writing Academic Reading University English
1集中(別途連絡)		実践看護英語演習	
4年次	前期	国際比較看護論	

※卒業研究で国際看護をテーマとして取り組むことを推奨する。

5 履修での留意事項

履修にあたっては、次の事項に留意ください。

- ① 時間割上、同一時限で履修できる科目は、1科目です。
- ② 時間割上、選択科目と必修科目が重複する場合には、必修科目が優先となります。慎重に履修科目を選択してください。
- ③ 看護専門教育科目は、定められた開講年次(学年)で履修してください。
- ④ 看護学実習の実施時期は、次の通りです。長期休業期間であっても、実習が優先されます。
 - ・基礎看護学実習(第1段階:1年次2月～3月中旬、第2段階:2年次8月～9月)
 - ・領域別看護学実習(3年次8月～3月上旬)
 - ・総合実習(4年次5月下旬～6月上旬)
 - ・公衆衛生看護学実習(4年次6月～11月)
 - ・養護実習(4年次8月～9月)

⑤ 看護学実習の履修にあたっては、以下の履修条件を満たす必要があります。

授業科目	配当年次	履修条件
基礎看護学実習	1後～2前	1年後期に実施する第1段階の履修にあたっては、看護学原論を修得していること
		2年前期に実施する第2段階に進むためには、基礎看護学実習の第1段階を終え、看護技術論、看護技術各論Ⅰ、看護技術各論演習Ⅰを修得していること
母性看護学実習	3後	母性看護援助論Ⅱを修得していること
小児看護学実習	3後	小児看護援助論Ⅱを修得していること
成人看護学実習Ⅰ	3後	成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲを修得していること
成人看護学実習Ⅱ	3後	成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲを修得していること
老年看護学実習Ⅰ	3後	老年看護援助論Ⅱを修得していること
老年看護学実習Ⅱ	3後	老年看護援助論Ⅱを修得していること
精神看護学実習	3後	精神看護援助論Ⅱを修得していること
在宅看護学実習	3後	在宅看護援助論Ⅱを修得していること
地域看護学実習	3後	地域看護援助論を修得していること
看護マネジメント実習	3後	看護マネジメントⅠを修得していること

6 履修モデル

凡例 ●:必修 ○○:選択科目 ★:資格取得に関連する科目 ※:フレッシュマンコア科目

科目区分	授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	教育課程					卒業要件		
					看護 師	保 健 師	養 護 教 諭	国 際 看 護	災 害 看 護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
導入科目	スタートアップセミナーⅠ ※	1前	2	講義	●	●	●					
	スタートアップセミナーⅡ ※	1後	2	講義	●	●	●					
情報統計	地域フィールドワーク ※	1前	1	講義	●	●	●					
	コンピューターリテラシー ※	1前	2	講義	●	●	●					
グローバルコミュニケーション	情報化社会と技術 ※	1後	2	講義	●	●	★					
	基礎統計学Ⅰ ※	1後	2	講義	●	●	●					
	基礎統計学Ⅱ	2前	2	講義								
	English GatewayⅠ ※	1前	1	演習	●	●	★	●				
	English Self-ExpressionⅠ ※	1前	1	演習	●	●	★	●				
	English GatewayⅡ ※	1後	1	演習	●	●	★	●				
	English Self-ExpressionⅡ ※	1後	1	演習	●	●	★	●				
	English for Academic Purposes ※	2前	1	演習	●	●	★	●				
	English Expedition ※	2前	1	演習	●	●	★	●				
	University English	2後	1	演習					○			
	Academic Writing	2後	1	演習					○			
	Academic Reading	2後	1	演習					○			
	中国語Ⅰ	1・2前	1	演習					○			
	中国語Ⅱ	1・2後	1	演習								
	韓国語Ⅰ	1・2前	1	演習					○			
	韓国語Ⅱ	1・2後	1	演習								
	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前	1	演習					○			
	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後	1	演習								
	国際日本学/Japanology	1・2後	2	講義								
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後	2	講義								
社会科学	憲法	1・2後	2	講義			★					
	政治学概論	1・2後	2	講義								
	国際関係論	1・2前	2	講義					○			
	社会と経済	1・2後	2	講義								
	現代東北社会論	1・2後	2	講義								
	社会の諸相	1・2後	2	講義								
	社会と哲学	1・2前	2	講義								
	人口学概論	1・2前	1	講義								
自然科学	文化人類学概論	1・2前	2	講義								
	数理科学	1・2後	2	講義								
	生命科学	1・2前	2	講義								
	環境学概論	1・2後	2	講義								
	地球と宇宙	1・2後	2	講義								
	数学概論	1・2前	2	講義								
	物理概論	1・2前	2	講義								
	化学概論	1・2前	2	講義								
芸術・人文科学	生物概論	1・2前	2	講義	●	●	●					
	現代メディアカルチャー論	1・2前	2	講義								
	美術	1・2後	2	講義								
	音楽	1・2前	2	講義								
	美術演習	1・2前	1	演習								
	音楽演習	1・2後	1	演習								
	文学	1・2後	2	講義								
	世界の歴史と文化	1・2前	2	講義								
人間科学	日本の歴史と文化	1・2前	2	講義								
	東北の歴史と文化	1・2前	2	講義								
	人と宗教	1・2前	2	講義								
	心理学	1・2前	2	講義								
	健康科学	1・2前	2	講義								
	スポーツ実技	1・2前	1	実習			★					
	体を動かす楽しみ	1・2後	1	実習			★					
	スポーツ科学	1・2前	1	講義								
実践基礎	福祉入門	1・2後	1	講義								
	食と社会	1・2前	1	講義								
	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	講義								
	アントレプレナー基礎	集中	2	講義								
	日本語Ⅰ	1前	1	演習								
	日本語Ⅱ	1後	1	演習								
	日本語Ⅲ	2前	1	演習								
	日本語Ⅳ	2後	1	演習								
留学生対象	日本事情Ⅰ	1前	2	講義								
	日本事情Ⅱ	1後	2	講義								
	グローバルインターンシップ	1・2集中	2	演習								
	学外研修	1・2集中	2	演習								
全学共通科目												

凡例 ●:必修 ○○:選択科目 ★:資格取得に関連する科目 ※:フレッシュマンコア科目

科目区分		授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	教育課程					卒業要件		備考			
						看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭	国 際 看 護	災 害 看 護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2				
専門基礎科目	人間発達学	1前	2	講義	●	●	●				必修科目を含めて 25単位以上修得					
	臨床心理学	1後	2	講義	●	●	★									
	保健行動科学	2前	2	講義												
	医療倫理学	1前	2	講義	●	●	●									
	人間関係論	1後	2	講義	●	●	●									
	形態機能学Ⅰ	1前	1	講義	●	●	★									
	形態機能学Ⅱ	1前	1	講義	●	●	★									
	形態機能学Ⅲ	1後	1	講義	●	●	★									
	薬理学	1後	2	講義	●	●	★									
	栄養学	2後	2	講義	●	●	★									
	社会福祉学	2前	2	講義												
	公衆衛生学	1後	2	講義	●	★	★									
	疫学Ⅰ	2後	2	講義	●	★	★									
	疫学Ⅱ	4後	2	講義		★										
	保健医療福祉行政論	3前	2	講義		★										
	学校保健論	2前	2	講義				★								
	病態学	2前	2	講義	●	●	★									
	疾病論Ⅰ	2前	1	講義	●	●	★									
	疾病論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	★									
	疾病論Ⅲ	2後	1	講義	●	●	●									
統合医療	4前	2	講義													
看護情報学Ⅰ	2前	1	演習	●	●	●										
看護情報学Ⅱ	2後	1	講義													
応用看護情報学	4前	1	講義													
専門教育科目	看護学原論	1前	2	講義	●	●	★				必修科目を含めて 78単位以上修得					
	看護実践論	2後	1	講義	●	●	★									
	ライフステージ看護学概論Ⅰ	1後	2	講義	●	●	★									
	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2前	2	講義	●	●	★									
	地域看護学概論	2前	2	講義	●	●	★									
	リハビリテーション看護論	3前	2	講義												
	看護学研究法	4前	2	講義	●	●	●									
	国際比較看護論	4前	2	講義				○								
	家族看護論	2後	2	講義	●	●	★									
	災害活動論	1後	2	講義					○							
	救急・災害看護論	4前	2	講義			★		○							
	災害看護支援論	4後	2	講義					○							
	看護英語	2後	1	講義				○								
	実践看護英語演習	1集中	1	演習				○								
	看護技術論	1後	2	講義	●	●	★									
	看護技術各論Ⅰ	1後	1	講義	●	●	●									
	看護技術各論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	●									
	看護技術各論Ⅲ	2前	1	講義	●	●	★									
	看護技術各論演習Ⅰ	1後	1	演習	●	●	●									
	看護技術各論演習Ⅱ	2前	1	演習	●	●	●									
	看護技術各論演習Ⅲ	2前	1	演習	●	●	●									
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●									
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●									
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★									
	小児看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	★									
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●									
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●									
	成人看護援助論Ⅲ	3前	2	講義	●	●	●									
	老年看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●									
	老年看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●									
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★									
	精神看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●									
	地域看護援助論	3前	2	講義	●	●	●									
	看護マネジメントⅠ	3前	2	講義	●	●	●		●							
	看護マネジメントⅡ	4前	2	講義	●	●	●									
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●									
在宅看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●										
緩和ケア論	4前	1	講義													
クリティカルケア論	4前	1	講義													
卒業研究Ⅰ	4前	1	演習	●	●	●										
卒業研究Ⅱ	4後	1	演習	●	●	●										
基礎看護学実習	1後～2前	3	実習	●	●	★				別に定める 履修条件を 満たしていること						
母性看護学実習	3後	2	実習	●	●	●										
小児看護学実習	3後	2	実習	●	●	★										
成人看護学実習Ⅰ	3後	2	実習	●	●	●										
成人看護学実習Ⅱ	3後	2	実習	●	●	●										
老年看護学実習Ⅰ	3後	1	実習	●	●	●										
老年看護学実習Ⅱ	3後	2	実習	●	●	●										
精神看護学実習	3後	2	実習	●	●	●										
地域看護学実習	3後	1	実習	●	●	●										

凡例 ●:必修 ○:選択科目 ★:資格取得に関連する科目 ※:フレッシュマンコア科目													
科目 区分		授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	教育課程			プログラム		卒業要件		
						看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭	国 際 看 護	災 害 看 護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門教育科目	専門科目	在宅看護学実習	3後	2	実習	●	●	●			(前ページ続き) 必修科目を含めて 78単位以上修得	別に定める履修条件を満たしていること 別に定める履修条件を満たしていること	
		看護マネジメント実習	3後	2	実習	●	●	●					
		総合実習	4前	2	実習	●	●	●					
		公衆衛生看護学原論	2後	2	講義		★						
		公衆衛生看護援助論Ⅰ	3前	2	講義		★						
		公衆衛生看護援助論Ⅱ	3前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護マネジメントⅠ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護マネジメントⅡ	4後	2	講義		★						
		公衆衛生看護マネジメント演習	4後	1	演習		★						
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	1	実習		★						
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	3	実習		★						
公衆衛生看護学実習Ⅲ	4後	1	実習		★				3年次に履修の可否を選択する 3年次に履修の可否を選択する 3年次に履修の可否を選択する				
養護教諭 種免許状に係る科目	教職に関する科目	養護概説	2後	2	講義			★			卒業要件単位に 含まない		
		健康相談活動	3前	2	講義			★					
		教職論	3前	2	講義			★					
		教育学概論	2前	2	講義			★					
		教育心理学	2前	2	講義			★					
		教育課程論	2後	2	講義			★					
		教育の方法	4前	2	講義			★					
		教育相談の基礎と方法	2後	2	講義			★					
		特別支援教育	4前	1	講義			★					
		道徳・特別活動及び総合的な学習と生徒指導	3前	2	講義			★					
		養護実習	4後	5	実習			★					
		教職実践演習(養護教諭)	4後	2	演習			★					

宮城大学履修ガイド 2024